

皇學館大学
ボランティアルーム

平成25年度 活動報告書



目 次

担当教員あいさつ	1
代表あいさつ	2
1. ボランティアコーディネート活動報告	
・平成 25 年度ボランティアコーディネート活動報告	5
2. ボランティアルーム企画活動報告	
・コミュニケーショントレーニング「學走中」 活動報告	13
・災害報告会 活動報告	18
・春季ボランティア促進会 活動報告	22
・秋季ボランティア促進会～謎解きはボランティアの後で～ 活動報告	25
・障がいスクーリング 活動報告	28
・「覚えていますか？東北のこと」 活動報告	33
・サマースクール 活動報告	35
・年間反省会 活動報告	39
・第 52 回倉陵祭模擬店 活動報告	43
・他大学視察 in 愛知淑徳大学 活動報告	47
・学生ボランティア交流会 in 七夕 活動報告	51
・ペットボトルキャップ&プルタブ回収 活動報告	55
3. アンケート報告	
・平成 25 年全学年対象アンケート報告	59
4. 資料	
・平成 25 年度 スケジュール	73
・平成 25 年度 募集一覧	74
・平成 25 年度 ルームスタッフ一覧	77

平成 25 年度をふりかえって

皇學館大学ボランティアルーム担当教員
教育学部 叶 俊文

平成 25 年度はどのような一年であったのだろうか。そんなことを振り返る時期になっていると思うと、一年の「速さ」を感じてしまう。

この一年はこれからやってくる過渡期の始まりでもあった。平成 23 年に三重県名張市にあった社会福祉学部のボランティアルームが伊勢に移設され、皇學館大学ボランティアルームとなった。そして、その活動を担う学生スタッフの中心は社会福祉学部の学生たちであった。福祉マインドを備えた学生たちが、支援を必要とする地域の方々と支援をしたいという学生たちを結びつける役割を担ってくれた。ボランティアの役割、ボランティアすることの楽しさ、学生がボランティアするうえでの注意などを丁寧に伝えることを心掛けてくれていた。そんな学生たちが卒業して、スタッフとしていなくなったところからスタートしたことになる。

この点からすると、社会福祉学部の学生であった小田谷さんや榎本さんたちの思いが文学部、教育学部、現代日本社会学部に所属する学生スタッフに伝わっていたかどうかを試される年ということになる。

学生スタッフの構成は 4 年生に 2 名、3 年生が 0 名という不安定を絵に描いたような人数構成になった。しかし、奮起した 2 年生がスタッフ募集をかけたことで多くの 2 年生が加わり、新たな 1 年生も入ってきたことで活気に満ちたボランティアルームの状況になったことは間違いない。しかし、その中で「どのようなボランティアルームにするのか」という大きな課題が与えられたような気がする。

4 年生は就職活動や卒業研究の合間を縫って、ボランティアルームに貼り付けてくれた。様々な活動の中心となった 2 年生は大いに奮闘してくれたと思っている。他大学への視察で多くのことを考え、松阪市社会福祉協議会との連携、学生へのボランティア啓発活動など積極的に動きまわってくれた。その中で、「どのようなボランティアルームにするのか」の解が少しでも見えてきたのであろうか？ おそらく、否であろう。それが過渡期ということになる。

その解はこれから数年かけて探し求めることになるだろう。地域の支援を必要とする方々に何が提供できるのか。いろいろな人たちの役に立ちたいと願う学生たちに何が提供できるのか。同じような活動をしている地域の社会福祉協議会とどのような連携ができるのか。そして、ボランティアとは何なのか……。皇學館大学ボランティアルームは何をなすべきところなのか……。そんなことをこれから暫く一緒に考えていきましょう。新しいスタートラインに立つために。

「変化」と「挑戦」

皇學館大学ボランティアルーム 学生スタッフ
教育学部 2年 松葉 拳介

今年度のボランティアルームは「変化」と「挑戦」の1年であったと言えます。これまでルームを支えてくださっていた社会福祉学部の先輩方が卒業され、教育学部、現代日本社会学部の学生が主体となり新体制のボランティアルームがスタートしました。先輩方がいなくなったボランティアルームを私たちが運営していくことが本当にできるのか、と不安を抱きながら1年のスタートを切ったことを今でも覚えています。

今年度はボランティアルームの業務の中心であるボランティアコーディネートを根本とした上で、「ボランティア参加促進会」や「ボランティア疑似体験」など新しい企画に取り組み、これまでと違ったボランティアルームを目指してきました。その結果として、これまでに比べ企画へ参加する学生の人数は大幅に増加しました。しかし、学生のボランティア参加へ私たちの企画が効果をもたらしたとは言い難いものであったと思います。企画の目的や内容を見つめ直し、学生にとってプラスになる企画をしていく必要があると感じました。学生をどう支援していくか、どうボランティアに結び付けていくかが、今後のボランティアルームの大きな課題であると言えます。

そんな活動の中、企画を増やしたことでボランティアコーディネーターが疎かになってしまい学生に迷惑をかけてしまったこと、学生スタッフ同士の衝突など様々な場面で上手くいかず悩み、苦しみ、もどかしさを感じながら運営していた時期もありました。その都度、ミーティングを開いては改善、修正に向けて試行錯誤の繰り返しでした。しかし、新しいことに挑戦する姿勢があったからこそ見えてきた新しい課題であるとも言えます。

ボランティアルームの繋がりを対外的にも、学内的にも密にすること、学生がボランティアに参加しやすいようサポートするなどまだまだ課題は山積みだと感じています。私たち学生スタッフは何分未熟であり、まだ学生スタッフとしてボランティアルームを運営していく上でスタートラインに立ったに過ぎません。学生がボランティアを求め続けてくれる限り、私たちは前進していかなければならないと感じています。

最後になりましたが、ボランティアルーム開設当初からご支援・ご指導いただいている教職員の皆様、そしてボランティア依頼やボランティア学生の受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様には心より感謝申し上げます。そして、どうか今度とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. ボランティアコーディネート活動報告

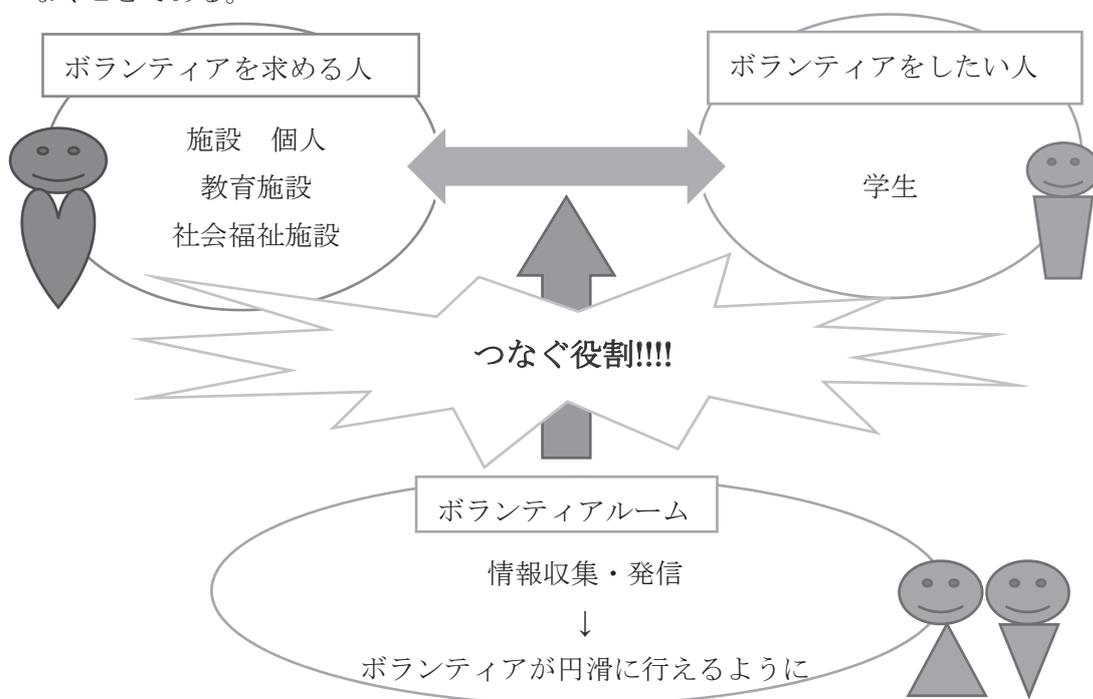
平成25年度ボランティアコーディネート 活動報告

1. はじめに

皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。ボランティアコーディネートについて、今年度の活動を報告する。

2. ボランティアコーディネート報告

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域から依頼されるボランティアを受付し、それを学生に情報提供してボランティア調整を行い、地域と学生をつなぐことである。



ボランティアコーディネートを学生スタッフが行うことで、学生のボランティアへの参加を促しやすくなったのではないかと思います。学生スタッフがボランティアコーディネートを進めるに当たって、気を付けなければならないことがある。それは、地域と学生の間を対等かつ互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にコーディネートを行うために、連絡を取り合うことの責任を学生スタッフ一人ひとりが理解しておく必要がある。

3. コーディネート状況

今年度の地域から依頼されたボランティア情報件数は、87件であり、コーディネート件数は38件であった。コーディネート人数は178人であった。一見、多いように思えるが、皇學館大学は約3000人の学生が在籍しているため、約20人に1人という低い割合でのボランティア参加となっている。また、同じ学生がいくつかのボランティアに参加していることから参加の実人数はもっと少ないことになる。これらのことから、まだまだボランティアに参加する学生が少ないと言える。内訳は以下の通りである。

ボランティア総件数	コーディネート件数	コーディネート人数
87件	38件 (44%)	178人

ボランティアルームでは3つのジャンルに分けて情報を発信している。

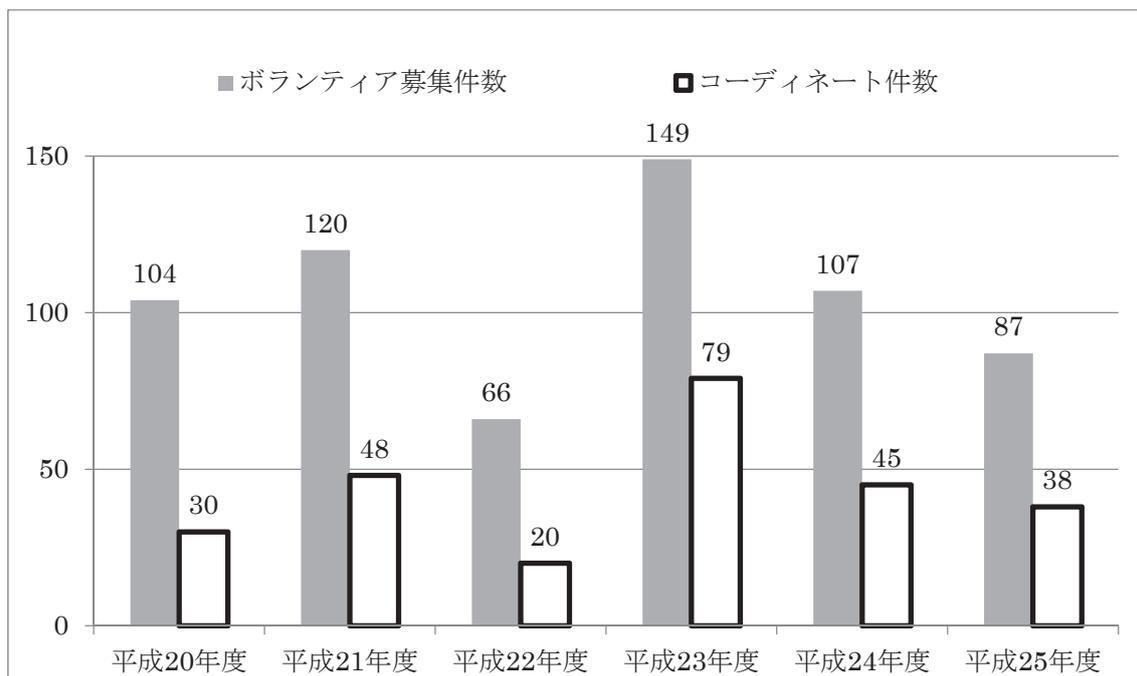
- ① 福祉系：高齢者施設、障がい者(児)、福祉競技スタッフなど
- ② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
- ③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど

3ジャンルの各ボランティア情報件数は以下の通りである。また、一つの情報に複数のジャンルが重なることもある。

	ボランティア件数	コーディネート件数
地域	29件	5件 (18%)
福祉	28件	19件 (68%)
子ども	30件	20件 (67%)

ボランティア件数は3ジャンルとも同じような割合だが、コーディネート件数は地域援助が他の2ジャンルに比べて少ないことがわかる。学生が地域の役に立ちたい、地域のために何かしたいという気持ちが低いのではないだろうか。来年度以降、もっと学生を地域での活動に導いていくことが課題になってくる。そのためには、学生スタッフがもっと学生が地域に発信していけるような情報提供をすることが必要となるだろう。また、皇學館大学は教育学部や現代日本社会学部があるので、子どもサポートや福祉系のボランティアをもっとコーディネートできるはずであると考えられる。ボランティアを通し、皇學館大学の学生が地域に貢献してほしいと思う。

前年度までのボランティア依頼件数とコーディネート率を比較すると以下の通りである。



伊勢学舎に統合された平成 23 年度から年々ボランティア件数が減少してことが分かる。しかし、昨年度と比べるとボランティア件数は減少しているが、ボランティアコーディネート率はそれほど差がない。このことから、ボランティア依頼件数が少ないから参加者が少ないのではなく、コーディネートのやり方次第でボランティアに参加する学生が増えるのではないかと考える。ボランティアをいかに学生に参加してもらえかというコーディネートスキルを磨く必要がある。

4. 学科別参加人数

学科別のボランティア参加人数は以下の通りである。

学科	参加人数
神道学科	2名
国文学科	7名
国史学科	7名
コミュニケーション学科	4名
現代日本社会学科	85名
教育学科	73名

現代日本社会学部は、ボランティアに参加するという指導がなされているため、夏休みに数多くの学生がボランティアに参加している。夏休みはボランティアに参加してくれる学生が増加する期間でもあるので、もっとボランティアを推進していけば、参加して

くれる学生も増加するかもしれない。また、表を見ると、文学部のボランティア参加人数が非常に少ないことが分かる。ボランティアルームは教育学部や現代日本社会学部よりも、文学部が利用する割合のほうが多い 2 号館一階にあるが、文学部のボランティア参加が少ない。文学部によりボランティアに興味をもってもらうためにはどうしたらよいかを考えていくことが来年度の課題となるだろう。

5. 依頼地域状況

今年度の地域別のボランティア依頼状況は以下の表になる。

	伊勢	玉城	松阪	津	多気	大紀	菰野	四日市	桑名	伊賀	志摩
件数	18	8	12	17	3	1	1	4	1	1	5

伊勢市、津市のボランティア件数が多い。しかし、皇學館大学は伊勢市に在籍しているので、もっと伊勢市のボランティア募集が多くなれば、学生も参加しやすくなるのではないかと考える。また、学生が地域に出ることにより、地域貢献にもつながるのではないかと考える。そのためには、より地域と連携し、学生が参加しやすいボランティアをコーディネートする必要がある。

6. ボランティア登録学生についての詳細

ボランティア登録学生からみるコーディネートを分析する。今年度の登録学生は合計 233 名である。登録学生の詳細は以下の表になる。

登録学生詳細										
学年		1年		2年		3年		4年		学科別合計
学部学科別		男	女	男	女	男	女	男	女	
文学部	神道	5	0	2	0	0	0	1	0	8
	国文	6	10	1	2	0	5	2	0	26
	国史	9	3	1	2	1	1	0	0	17
	コミュニケーション	1	1	0	0	0	3	0	0	5
教育学部		32	63	12	28	2	21	0	6	164
現代日本社会学部		3	4	0	4	0	1	0	1	13
男女別合計		56	81	16	36	3	31	3	7	233
学年合計		137		52		34		10		

学部学科別でみると、教育学部の学生が一番多いことがわかる。しかし、ボランティアは子ども系のボランティアだけではないので、ほかの学部学科の学生にいかに関心を持ってもらうかが課題になる。また、ボランティアルームは、2号館にあるため

文学部には、ボランティアルームの存在は伝わっていると思われるが、ボランティア登録学生が少ないことは今後の課題でもある。

学年別にみると、学年が上がるにつれてボランティア登録学生も減少している。ボランティアルームが伊勢学舎に移転され2年目である。3、4年生にはなかなか伝わりにくいかもしれない。しかし、1年生のうちにボランティアルームの存在を知ってもらい、学年が上がっても自然にボランティアに抵抗がないようにしていきたいという私たちの考えがある。

まだまだ課題があるが、前年度より少しずつであるがボランティアを促進していった気がする。来年度からもコーディネートに力を入れ、様々なボランティア依頼者と連携をとり、ひとりでも多くの学生にボランティアに参加してもらえるよう私たち学生スタッフも更なる成長をしていきたい。

【文責：教育学部教育学科2年 大谷奈都希】

2. ボランティアルーム企画活動報告

コミュニケーショントレーニング「學走中」活動報告

1. 目的

体を動かしながら他者とのコミュニケーションをとり、学部・学年を問わない繋がりをつくることで学校内の新たな交友関係を築き、それによって大学生活の充実化を図ることを目的とした。またボランティアルームの存在・活動を知ってもらい、学生のボランティア参加促進も目的として開催した。

2. 活動内容

第1回 平成25年4月24日(水) 14:00~16:00

場所：雨天により 体育館サブアリーナ

参加人数：8名

第2回 平成25年10月30日(水) 14:00~16:00

場所：大学内

参加人数：28名

担当者：坂元美咲 柘植美早 黒田ゆかり 松葉拳介 北村知暉 眞田有伊

第1回：4月に開催された第1回目の企画は雨天により、体育館サブアリーナで自己紹介ゲーム、人間ピラミッドといったレクリエーションを企画した。自己紹介ゲーム参加者を二列に並べ、お互いに向かい合い、持ち時間1分間で自己紹介をするというもの。1分が経過すると時計回りにスライドし、再度向かいの人と自己紹介をすることで最終的には全員と自己紹介ができるというもの。人間ピラミッドは6チームに分かれ、2チームずつが攻撃側と守備側に分かれ対戦していく。攻撃側はスタート地点から見て3人、2人、1人とピラミッド型に並んでいる守備側に向かって攻めていく。初めはピラミッド最下段に位置する3人のうちの誰かとじゃんけんをし、勝てば中段に位置する2人のうちのどちらかとじゃんけんをし、勝てばピラミッドの最上段に位置する1人とじゃんけんをし、勝てば1ポイント、途中で負ければスタート地点に戻ってやり直しとなり、ポイント数の多いチームが勝ちとした。

第2回：「學走中」を実施した。學走中というのは、鬼ごっこの要領で逃走者がハンターからミッションをクリアしながら捕まらないように逃げるというゲームである。ミッションは3つあり、ミッション①は事前配布していた紙に自分以外2名の逃走者の名前をその逃走者の人に記入してもらうものである。ミッション②はハンターを逃走者2名が協力しアイテムを駆使して5分止めるというもの、ミッション③はスタッフにじゃんけん3回連続勝つというものである。また途中で捕まった逃走者に復活ゲームと題してスタッフ1人と捕まった逃走者全員でじゃんけんをして勝った5人をゲームに再度参加してもらった。

た。ミッション3つをクリアし終了時刻まで逃げ切れた逃走者を勝者とした。

3. 活動報告

第1回 4月24日

告知はボランティア登録者に対するメール配信・ポスターの掲示・SNSでの呼びかけ食堂前での呼びかけを実施した。対象は、新入生を中心とし、沢山の大学生と関わり、コミュニケーション能力を高め、横と縦との繋がりを広げることを目的とした。

雨天の為、學走中からレクリエーションに変更したので、参加学生が減少した。しかし、参加学生は、体育館サブアリーナで汗を流しながら、各グループで協力し合い、自然にコミュニケーションがとれていたようだ。そして、何より、他学科や他学年と自然にコミュニケーションをとることができ、友達の輪を広げることに繋がったようであった。

第2回 10月30日

告知は、第一回目の反省をいかし早くから宣伝を始め、告知回数を増やすなどスタッフ一丸となり呼び込みに力をいれた。結果、当初の予想していた人数より多くの参加者が集まっていたこととなった。

我々が今回の活動を通して参加者に経験してもらいたかったのは、いかに初対面の人とコミュニケーションをうまくとろうか思考してもらうことである。ミッション内容もその目的に合わせ他人と協力して達成するというコンセプトとした。その甲斐あってか、我々スタッフが見る限りでは参加者は各々の方法で他の学生とコミュニケーションをとりながら、どのように協力しようか模索し、生き生きと活動することが出来ていたように思われる。

<活動風景>

第1回目 レクリエーション



人間ピラミッド



参加者集合写真

第2回目 學走中



自己紹介風景



活動に取り組む学生の様子



参加者集合写真

4. 参加者からの意見（アンケートより）

感想

- ・エラかったけど、最高の思い出。
- ・小学生になった気分。楽しかった。
- ・全力で走るのがたのしかった。また参加したい。
- ・楽しかったです。
- ・疲れた。
- ・すごく楽しかった。ハンターが特に楽しかった。
- ・もっと面白くできると思う。
- ・大学で体を動かすことがないので良かった。
- ・運営側の人にも参加してほしかった。
- ・人数をもっと欲しかったし、エリアをもっと広くして欲しい。

この活動の中で気づいたこと

- ・知らない人同士でも盛り上がった。
- ・自分があんなにも走れると思ってなかった。
- ・初めて会った人とも仲良くコミュニケーションがとれた。
- ・仲間の大切さ、絆を感じた。
- ・体力不足を気づかされた。
- ・昔を思い出した。
- ・頭を使った。

5. まとめ・反省

第1回目は、雨天により、沢山の参加予定学生はいたが、当日は予定よりも参加人数が大幅に減少した。雨天になった場合でも、学生が「参加したい。楽しそう。」と思えるような企画作り、情報を発信していくことが重要である。また、春に行ったコミュニケーショントレーニングに引き続き、第2回目では、前回の反省を活かし企画、運営することが出来た。前回と比べ、より内容が充実したものであった。参加者を対象としたアンケートでも、「楽しかった。」「またこのような機会があれば参加したい。」という意見をいただいた。またスタッフ一丸となって企画運営に携わったため、スタッフ間の結束も強くなったような気がする。しかし、準備不足、宣伝開始の遅れ、時間配分など反省すべき点多々あった。特に参加学生に向けて危険場所の警告不足により学校の備品を活動中に破損してしまったので反省している。また、参加者に十分な情報が行き渡っておらず混乱を招いたことも反省すべき点だと痛感した。

アンケート結果からは、本来の目的であるコミュニケーションをとることができたという回答が多く見られたので良かった。一方でもっと改善できる点があるとの指摘も頂いた

ので次回に活かすことができればよいと思う。次回企画するときは早い段階から十分な準備をし、スタッフ間の連携をより強め、今回以上に目的である“他者とのコミュニケーション”をとれるような企画にしたいと思う。

【文責：教育学部教育学科 1年 坂元美咲 2年 黒田ゆかり】

災害報告会 活動報告

1. 目的

みえボラパックに参加した本学の学生スタッフ及び一般学生による活動についての報告をしていただき、学生同士の想いを共有していくために実施した。

また、この報告会をきっかけに東北の被災地への現状を知っていただく機会としたい。

2. 活動内容

開催日：平成25年5月22日（水）13時00分～14時30分

場所：722教室

司会者：宮崎遥香（教育学科2年）

報告者：久保 圭（現代日本社会学科2年）

境井太朗（教育学科2年）

西村友希（現代日本社会学科2年）

玉井隆至（教育学科3年）

木崎雄斗（国史学科3年）

参加者：22人

担当者：久保 圭、小山菜那、境井太朗、西村友希、宮崎遥香

今回の報告会は、平成25年3月15日～18日に災害ボランティアとして岩手県山田町で活動を行った9名の学生スタッフのうち3名及び一般で参加していただいた玉井さん、木崎さんに現地における体験や活動を報告していただいた。また、報告者たちの参加した「みえボラパック」について知ってもらいたい、少しでも多くの学生が災害ボランティア参加へのきっかけになればと思い、みえボラパックの紹介も兼ねて関連資料の配布も行った。報告の発表形式はそれぞれ10分ずつ、パワーポイントで行った。

3. 活動報告

まず初めは、被災地の現状について久保さんが報告した。東日本大震災が発生した当時と2年経過した時の写真を比較しながら、「実際に被災地に行ったときに、まだまだ復興はしていないのだと、目で見て、肌で感じることができた。ニュースや新聞だけでは被災地の現状を理解できていなかった」と発表した。

二人目の境井さんは、蓄音機演奏会の補助というボランティア活動について報告した。仮設住宅や老人ホームを移動しながらの蓄音機の運搬や、演奏会では住民の方たちと歌ったり踊ったり一緒に楽しむことができたと言った。また、演奏会に参加していただいた住民の方ともコミュニケーションを取ることができたという。

三人目の西村さんは、新聞コサージュ作りのボランティア活動について報告した。山田町内にある仮設住宅の集会所のような部屋で、参加していただいた住民の方とマンツーマ

ンで新聞コサージュの制作をした。共に作業を進めていくなかで次第に住民の方と打ち解けていき、昔話や世間話、震災当時の体験等のお話を聞くことができたという。

「被災地でのボランティアは瓦礫や土砂の撤去っていう力仕事のイメージがあった。でも今回の活動を通して、一緒に何かを作ったり、お話を聞くといった“心のケア”を目的としたボランティアもあるのだと知った。」と、災害ボランティア活動のイメージが変わったこと、体力に自信がない方でも災害ボランティアに参加できることを教えていただいた。

最後に玉井さん、木崎さんの報告では被災地に行って感じたこと、ボランティア活動を通しての現地の人々とのふれあいの大切さについてお話していただいた。また、玉井さんは震災が発生してから半年後に岩手県山田町へボランティア活動に入ったときのお話もしていただいた。前回参加したボランティア活動の内容は、土砂や泥の撤去作業が中心だったが、今回は仮設住宅の人々の心のケアという活動内容だったため、被災地のボランティアニーズの変化を感じたと語っていただいた。

報告が終わってからは、報告会の参加学生からの質疑応答を15分、その後アンケート回答を行った。

4. 参加者からの意見

①今回の災害報告会でどのように感じましたか？

- ・テレビや新聞などでしか東北の震災について見たこと、聞いたことがなかったので、行った学生の生の声を聞くことができよかったですと思います。
- ・今、被災地の報道が少なくなってきたけど、震災があったこと、被災地の人々の気持ちを忘れてはいけないと強く思いました。
- ・実際に現地に足を運ぶことの大切さを改めて知りました。ニュースだけではわからない生の声を聞くことで、本当に自分たちが考えるべきことが見つかるのではと思いました。
- ・多くの人に災害の状況を伝えていかなければいけないと思いました。
- ・ちょっと忘れかけていた被災地のことを思い出せた。それだけテレビが取り上げてなくて、でも忘れちゃあかんってことで、また報告会やって下さい。

②今回の災害報告会で心境の変化がありましたか？

- ・ぜひ、被災地に行って、現地の人とふれあいたいと思いました。
- ・様々なボランティア、支援の仕方があるのだなと気づかされた。全てをボランティアしようとするのではなく、自分ができることを一つでも見つけて支援することができればと思いました。
- ・機会があれば東北へ足を運び、ボランティアしたいです！！
- ・まだ復興は進んでいないと感じました。まだできることはあると思うし、“伝える”と

いうことをしていきたいです。

- ・前から東北ボランティアに行きたいと思っていて、今回ますます行きたくなりました。

5. 反省

今回の災害報告会は3月下旬から毎週、企画担当で打ち合わせを入念に重ねてきた。当初予定していたのはボランティア参加者の体験報告からグループディスカッションをして“東日本大震災からわたしたちは何を学べるか”というテーマについて語り合おうというものだった。しかしこの企画だと伝えたいことが多すぎて最終目的が定まらないこと、2時間近く時間を要するという課題が出てきたため、途中で断念し、最初から企画を考え直すこととした。

まず、この報告会を開いて、「参加学生に何を伝えたいのか？」ということから考えていくうちに、災害ボランティア活動に参加した学生が自身の体験を、自分の言葉で伝えることによって少しでも多くの学生が東北の被災地へ興味を示してくれるのではないかと、そこからボランティア参加促進につなげようという目的にたどり着き、急いで作業を進めていった。

しかし、準備期間が少なく、リハーサルもしないで当日を迎えたために拙い災害報告会となり、自分たちの力の無さを実感した企画となった。今後としての対策は、企画の打ち合わせの段階から「どういう目的で行うのか」というのを担当のスタッフ間で明確にして共有し合うべきであったのではないかと思う。また、企画当日までのやるべきことをスケジュール化して、打ち合わせ以外に情報の共有も必要であると感じた。

だが、報告会の参加学生アンケートに目を通すと、「同じ学生の生の声を聞いてよかった」「自分も被災地へ行ってみたい」といった声ばかりで嬉しかった。拙い発表ながらも、私たちの思いは少しでも学生に伝わったような気がした。やはり同じ学生が活動しているという報告が学生にとっても一番興味深いものになるということを感じた。

東日本大震災―未曾有の災害が引き起こした爪痕は、今でも濃く深く、私たちの心に刻まれている。あの震災を忘れてはいけない、伝えねばならない。その思いを今回の災害報告会で学生に伝えられて良かったと思う。この報告会をきっかけに、一人でも多くの学生が東北の被災地へボランティアに行き、語り継いでいくことを望む。また、私たちボランティアルームのスタッフは、そういう学生を支援し、語れる場を提供していく必要があると思う。

6. 活動風景



文責：宮崎遥香（教育学科 2年）、久保 圭（現代日本社会学科 2年）
西村友希（現代日本社会学科 2年）

春季ボランティア促進会活動報告

1. 目的

上半期のボランティアルームの報告会を行うことが目的である。しかし、今までの報告会はボランティアルーム内だけで行われていたが、「話ばかりでつまらない」「まじめな話し合い」などのイメージを持つ学生が多く、人数が集まらなかった。「報告会」のイメージを変え、学生の参加しやすいようにすることを考えた。どのようなボランティアがあるかを気軽に見てボランティアに興味を持ってもらい、夏休みのボランティアに参加してくれる学生を増やせるような試みに挑戦した。

2. 活動内容

開催日:平成 25 年 7 月 3 日(水) 12:30~15:30

場所:722 教室

対象者:全学生

企画担当:2 年生 大谷奈都希 奥野紘規 川村亮仁 宮本紗代

運営担当:1 年生 出口真太郎 内藤悠

大和田野澄香 高奥命 柘植美早 森本京花

飯尾美咲 長谷川拓 林航平

今回はこれまでのような話し合いの場ではなく、「Let's go ボランティア!!~夏休みの思い出をつくろう!!~」と題して学園祭の展示会のような形式にすることを話し合いで決めた。展示は上半期に行われたボランティアの日時・場所・内容・参加してくれた学生の感想をポスターに書いてもらい掲示した。また、夏休みに開催されるボランティアについては掲示をして、その場で申し込めるようにスタッフも配置した。倉陵祭での展示のようにただ学生を待っているだけではなく、日程が迫っているボランティアは「出張ボランティア」としてスタッフがポスターを持って学内でボランティアの呼びかけを行い、参加者を募った。他にも東日本大震災が起きた事実を忘れないようにするためにスタッフ自作の災害掲示板を設置し、スタッフが実際に東北ボランティアに参加した時のボランティア活動の映像も流した。

3. 活動報告。

当日は 20 名ほどの学生が見に来てくれた。毎回各企画に参加してくれる学生の他に新規の学生が気軽に参加してくれていた。報告会にしてしまうと途中からは入りづらいと思う学生がいると思うが、今回は展示形式にしたことによって自分たちの都合の良い時間に来たり、見学することができるので、気軽に来てくれる学生が多かったと

思われる。

展示をひとつひとつ丁寧に見てくれる学生、今までにない形式で何をしているのかと興味本位で来てくれた学生がいた。どのようなボランティアがあるのかとスタッフに質問をしてきた学生や、ボランティアに興味があると話してくれた学生もいた。普段、学生はボランティアルーム内でスタッフと交流しているが、学生もスタッフも普段と違う形の交流により新鮮な気持ちでボランティアについて話すことができた。

夏休みに出されている課題でボランティアに参加したい学生が来てくれたこともあり、夏休みのボランティアには4名の学生が参加申し込みをしてくれた。当初の目的通り、ボランティアの促進と、夏休み期間中のボランティア参加者を募ることができ、大いに成果はあったのではないかと考える。

5. まとめ・反省

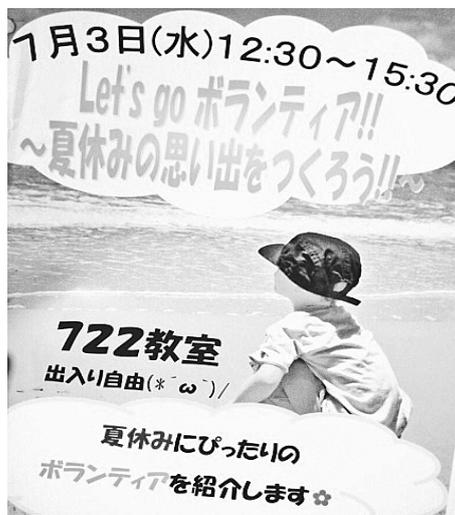
企画に携わる2年生がなかなか集まらず、準備を進めることができなかった。また、1年生には各自でポスターの作成もしてもらったが、いきなりのことで1年生もどのように作っていいかわからず、困惑させてしまった。ボランティア情報の取得方法など掲示物の作り方を私たちが明確に1年生に示さなければならぬと感じた。グループの2年生も何をしたらいいのかわからず、率先して行動に起こせなかった。グループ内での協力や情報共有ができていなかったのも反省点である。

当日の反省点は配置スタッフが多すぎた点である。ボランティア情報が展示されていることで見には行きやすいが、スタッフが多すぎて入室することや申し込みしにくい雰囲気であったと感じる。「展示」というのはスタッフが1人もいないのも、多すぎるのもいけないということがわかった。そして、2年生は1年生たちに対して何のアドバイスもできておらず、全体的にスムーズに活動ができなかったように感じた。

報告会の形式を変えるという初めての試みでもあったのでいろいろなことを知ることができた。今後の報告会や企画では話し合いの場を増やし、どうすれば学生の参加人数を増やせるかをグループで意見を出し合い協力してさまざまな企画を通してボランティアのことを知ってもらおうようにしていきたい。

【文責：教育学部教育学科2年 大谷奈都希、川村亮仁、
現代日本社会学部現代日本学科2年 宮本紗代】

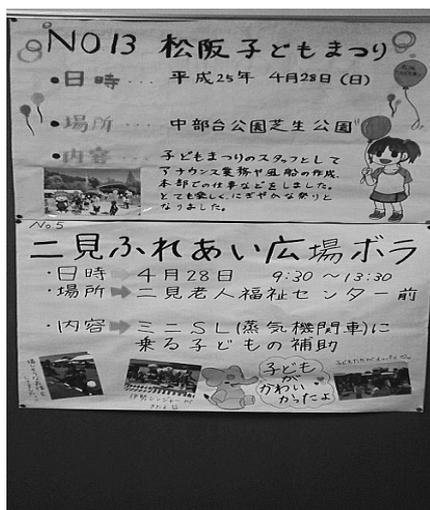
【活動風景】



掲示ポスター



災害掲示板



掲示ボランティア



掲示ボランティア



運営スタッフ

秋期ボランティア促進会 ～謎解きはボランティアの後で～ 活動報告

1. 目的

学生のボランティア参加を促すことを目的としました。また、具体的にどのようなボランティアがあるのかを楽しみながら知ってもらうことを目指しました。

2. 活動内容

開催日：平成 26 年 1 月 15 日(水)13:00～16:10

場所：622 教室、711 教室、746 教室、752A 教室、芝生、体育館

報告者：大谷奈都希、松谷広志、宮崎遥香、森本京花

参加学生：22 人

3. 活動報告

今回のボランティア参加促進会は初めての企画でした。

この企画では、「謎解きはボランティアのあとで」と題してボランティアの情報を参加者に提供することで、ボランティアに参加する人を増やすことを目的として行いました。企画内容としては、ボランティアの疑似体験を通してボランティア紹介を行いました。その中で謎解きのゲームを取り入れることで学生が参加しやすいようにしました。紹介するボランティアはボランティアルームにおけるボランティア区分に従って、子ども系、福祉系、地域系、の三つに分けて各チェックポイントではこれらに関する疑似体験をしてもらい、ボランティアを知ってもらうという形をとりました。

関連する疑似体験としては、子ども系であれば、「昔遊び体験」、福祉系であれば「車いす体験」、地域系であれば「ゴミ拾い体験」などを行ってもらった。

企画の運営方法としては、スタート地点とチェックポイントを5つ用意し、まず参加学生をスタート地点に集めて企画の説明をしました。そして学生を5, 6人で1つのグループに分けて、各チェックポイントに分かれてそれぞれの疑似体験を行ってもらいました。

疑似体験を終えたら次のチェックポイントへのヒントの謎解きをしてもらって、解いたら次のチェックポイントに行ってもらい、最後にスタート地点に戻ってきってもらうという形で企画を進行していきました。また、チェックポイントごとに所要時間が違うと予想されていたため、チェックポイントを2つか3つ回ったらスタート地点に来てもらい、時間を合わせてスムーズに進行するようにしました。

当日は、22人の学生が参加してくれました。参加学生はグループで協力してボランティアの疑似体験や謎解きをしてくれて、とても楽しんで企画に参加してくれているようでした。

4. 活動風景



昔遊び



車いす体験



ボランティアルーム活動映像視聴



参加していただいた学生の皆さん

5. 参加学生へのアンケート結果

参加人数:22人

- 1 今回のボランティアルームの企画は楽しかったですか？
 - 「とても楽しかった」… 19人
 - 「楽しかった」… 3人
 - 「普通」… 0人
 - 「あまり楽しくなかった」… 0人
 - 「楽しくなかった」… 0人
- 2 参加した理由は何ですか？
 - 「友達に誘われて」… 17人
 - 「勧誘を受けて」… 5人
 - 「ポスターを見て」… 0人
- 3 この企画に参加して、ボランティアに興味をもちましたか？

はい 22 人

4 今回の企画での良かった点、改善点

- ・友達と一緒に活動できたのが楽しかった。
- ・ボランティアの疑似体験をすることでどんなことをするのか具体的にわかり興味を持つことができた。
- ・ひとつひとつのボランティアに対して説明がありわかりやすかった。 etc...

アンケートの結果から、今回の企画を通して多くの参加者がボランティアに興味を持ってくれたことが分かりました。

6. 反省点・まとめ

反省点としては、まず、紹介できるボランティアが限られていた点。この点については紹介するボランティアを福祉系のボランティアだけにしぼることで深くまでボランティアを紹介していきたいと思います。また、参加学生が他の企画に参加してくれていた人が多く、新規の学生が少なかったという点、また参加学生の学部学年が偏っていたという点がありました。これらの点は、アンケート結果により、学生の参加理由が「友達に誘われて」が多いことが原因の一つと考えられます。

これらの反省点から、告知のポスターの掲示場所を増やし、授業前の呼びかけを行うなどのより効果的な宣伝方法や、学生の求めているボランティアを紹介できる方法を考えていきたいと思います。

良かった点としては、アンケート結果からゲーム式であったことが面白いという意見をいただいたことと、ボランティア疑似体験ということが実際にボランティアを身近に感じられたという点です。また、企画を実施した時期がテスト期間中だったにも関わらず、たくさんの方が参加してくれたことです。このことから、今後はこのような企画をボランティアが多い夏休みや春休みの長い休みに入る前と同時に学生にもスタッフにも余裕のある時期に行えたらより参加率が増え、実際にこの企画の目的であるボランティア参加促進に繋がるのではないかと思います。

ボランティアに参加したいが、たくさんあるボランティアの中から何をすれば良いか分からないという学生が多いことから、実際に参加できずにいる学生に学内でボランティアの疑似体験をしてもらい、参加したいボランティアを考えていただく。このような形で、学生がボランティアに参加しやすい環境を作っていきたいと思います。

今年度が初めて行う企画であるため、この企画によるボランティア参加率などをみて、この企画をより発展させていきたいです。

【文責:教育学部教育学科1年 森本京花 2年 松谷広志 宮崎遥香】

障がいスクーリング 活動報告

1. 目的

- ・身体に障がいのある方や身体が不自由なお年寄りの方などへのボランティアのニーズが高まっている中で、こうした方々の身体的な状態を理解しておくことは大変重要なことであり、ボランティア活動に参加した際により親身になって取り組んでくれるのではないかと考えた。
- ・学内に施されているバリアフリー構造を体験することで、より良いバリアフリーとは何なのかを考えた。

2. 活動内容

開催日：平成 25 年 11 月 27 日（水）13 時 15 分～14 時 30 分

場所：711 教室

対象者：介護実習及び社会福祉士現場実習を控えた学生、福祉関係のボランティアに興味のある学生

担当者：久保 圭、西村友希、出口真太郎、高奥 命

3. 活動報告

今回行った障がいスクーリングは、ボランティアルーム初の試みであった。そのため、ポスター掲示・メール配信・Twitter・食堂での呼び込みで参加者を大々的に募った。

体験内容としては「車いす体験」と「盲目疑似体験」の 2 種類を行い、それぞれのグループに分かれて、スタッフが事前に練ったコースを巡回していただいた。巡回の前には、車いすの正しい扱い方や視覚障がい者の方への介助法をスタッフ自ら実演し説明した。盲目疑似体験では、コースの巡回だけでなく食事介助の体験も行った。

当日は、11 名が参加してくれた。参加者それぞれが目的意識を持っており、積極的に体験に臨んでくれた。

車いす体験は、スタッフ指導の下に、まず 2 人 1 組で車いすを乗れる状態にする所から始まり、車いす体験用のコースを行きと帰りで交代してもらいながら行った。コースの中には 1 人でスロープを上り下りするポイントがあり、「意外ときつい」「ちょっと怖い」などの声も聞こえてきた。

盲目疑似体験は、2 人 1 組でどちらかの人にアイマスクか視野狭窄めがねという視覚障害がある方の状態を体験できる特殊なめがねをかけてもらい、プリンやゼリーを用いた食事介助と盲目疑似体験用のコースを巡回していただいた。階段の上り下りでは、手すりの位置やあと何段あるかなどを伝えてあげようとする思いやりの気持ちが見受けられた。食事介助では、ただ「口を開けてください」と言って口の中に入れるのではなく、一度下唇にスプーンを当てて「これは〇〇ですよ」と声をかけて確認させてから口にいれてあげると

いう正しい介助の仕方をスタッフが説明し、実践してもらった。

全員が体験を終えたあと、この障がいスクーリングについてのアンケートを実施した。
参加者は以下のとおりです。

1年	現代日本社会学科	近藤雄斗
2年		渡邊眞美
		内田夕貴
		竹内智哉
		濱岡和哉
	教育学科	東 和樹
		齋藤春香
		小方あやめ
3年		山口薫平
		大橋 拓
		前田大輝

4. 活動風景





5. 参加者からの意見

<感想>

- ・ 普段体験できないことなので、本当に良い経験になった。
- ・ これからの実習に活かせると思った。
- ・ 車いす・目が不自由な場合での坂道・段差の大変さがわかった。
- ・ 介護をする上で、障がい者の立場になって考えることが大事だと思った。
- ・ 見える世界が見えないのはとても怖かった。
- ・ 楽しみながら学ぶことができた。
- ・ スタッフの対応が丁寧だった。

<改善してほしい点>

- ・ 車いす体験と盲目疑似体験との開始時間に差があった。その間に何か体験できたらよかったと思った。
- ・ コースがわかりにくかった。
- ・ 盲目疑似体験で使っためがね（視野狭窄めがね）が取れやすかった。

6. まとめ・反省

- ・ 急な参加者が多かったため集合時間や説明の時間が予定通りにはいかず、それぞれの体験開始が遅れてしまった。時間のずれや飛び入りでの参加を想定して、道具の予備や待ち時間でできる簡単な体験を用意しておくべきだった。
- ・ コース説明がわかりにくかった為に迷う参加者がいたので、地図の作成への工夫やスタッフの配置場所を多くすればよかった。

・参加者のほとんどがスタッフの知人であり、ポスターやメールなどの媒体がきっかけで参加してくれた方が少なかった。

誰一人けがをすることなく終わることができ、参加者の方々にとって少しでも良い経験になったのなら幸いだ。

7. 資料

・掲示用ポスター

♪ ボランティアルーム主催 ♪

障がいスクーリング

11月27日(水) 13:15~1時間程度
【711教室】

身体が不自由な方へのボランティアに興味がある・参加してみたいけど一歩踏み出せない・何かボランティアに参加してみたいと思っている方!!!

一度、「障がい疑似体験」してみませんか?

もちろんその介助も体験できますよ!!

- ・車いす体験
- ・盲目疑似体験

申込受付中!
会場にてボラ参加手続き可能!
お友達を誘って参加しよう!!
おやつ有り←

「覚えていますか？東北のこと。」活動報告

1. 目的

被災地にボランティアとして入ったスタッフが作成した映像を見てもらい、地震や津波の怖さ、人々の苦しみ、被災地の現状、命の大切さを参加学生へと発信した。「3年前の3月11日のことを忘れてはいけない。」「風化させてはいけない。」という思いを一人一人が持ち、被災地のことを知り、考える機会を再度促進することを目的とした。

2. 活動日時

1部 平成26年1月7日（火） 18時10分～19時

場所：722教室

参加人数：16名

2部 平成26年1月8日（水） 13時～14時

場所：721教室

参加人数：15名

報告者：大谷奈都希、黒田ゆかり

3. 活動内容

映像の内容は、被災地の写真や被災地の方にインタビューをしたものを上映した。また、昨年度と同様にスタッフであった故人市川弥生さんが作成した映像を元にしながら、被災地のこと、命の大切さをより伝えられる映像会を開催した。

映像に使われた写真は、津波の影響で窓ガラスが割れている学校の校舎や、津波で流されてきた船がビルの屋上にあるような、私たちには想像もつかないくらいの衝撃的な写真の数々であった。

インタビュー内容は、震災当時の心境や私たちに望むこと、被災地の方の願いという3つのテーマに分けて報告した。そのメッセージ内容は、被災地に実際に来てほしい。そこで自分で見て、感じたことを、友達や家族に伝えてほしいという願いが込められていた。

まとめの話として、3月に東北ボランティアに行って感じたこと、復興状況など自分が見て、聞いたことを発表した。

4.活動報告

参加学生は、涙を流しながら映像を見ていた。また、大切な人を一瞬にして失くしてしまうことや、今を一生懸命に生きることの大切さを感じたようだ。そして、私たちは、被災地の方のために何ができるだろうということを考える時間となった。そして、当たり前な毎日ほど幸せなことはないと感じていたようだ。今回の企画で感じたことを、友だちや家族、周りの人に伝えていきたいという気持ちになることが出来たようだった。

・活動風景



5.参加者からの意見

- ・命の大切さ、尊さを学んだ。
- ・できることは小さなことでも何か動いてみたい。
- ・東北の現状について何も知らなかったのもっと自分にできることを考え行動したい。
- ・被災地の方の言葉ひとつひとつには重みがあり、生きるということがどれほど奇跡的なことだということ、テレビなどで得られる情報は一部分で、実際はもっと厳しい状況であることを実感した。

5. まとめ・反省

この企画は昨年度も行い、今年で2回目となる。1回目に比べて参加人数が減少していた。その理由としては、あの大地震から3年経とうとする今、テレビでも被災地のことが放送されることは少なくなり、風化しつつあるのと同様に、学生の被災地に対する意識がなくなっているからであると考えられる。遠く離れた被災地の現状を学生に伝えていくことは難しいことである。その為、被災地の方と連絡を取り、新たな情報を発信していくことで、学生の被災地に対する思いが変わるのではないかと考える。今後も、被災地のために出来ることを学生同士で考え、共有する時間を設けることで、被災地と繋がるためのきっかけ作りになると考えている。

【文責：教育学部教育学部2年 黒田ゆかり】

サマースクール 活動報告

1. 目的

サマースクールは今年度で六回目の開催となる。松阪市社会福祉協議会と合同で開催される企画のことで、夏季休暇中の小学生を対象として宿題を教えたり、学生スタッフが考えた企画プログラムを実施したりしている。

皇學館大学の大学生(以下、参加学生)が小学生と一対一で接することができるボランティアの一つであり、ボランティアルームの学生スタッフが仲介役となり松阪市社会福祉協議会と参加学生、そして子供たちをつなげることにより、非常に柔らかい雰囲気の中で子供との関わり方を考えることのできるプログラムになっている。

2. 活動内容

平成 25 年 8 月 8 日(木)、19 日(月)、27 日(火)

10:00~17:00

松阪市福社会館

対象者：松阪市内の小学生

報告者：境井太朗

内容：今年度のサマースクールも例年通り午前中は学習時間、午後は活動時間の二部体制で実施した。学習時間は参加学生が子供たちの勉強を見てわからないところや宿題の手伝いをした。活動時間では今年度は新聞コサージュ作りとおやつ作りに挑戦した。新聞コサージュ作りは平成 25 年 3 月にボランティアルーム学生スタッフが東日本大震災で被害を受けた岩手県山田町に入った際に交流活動で実施したプログラムである。

3. 活動報告

参加学生には、午前は勉強を教えるグループと会場の設営をするグループに分かれ、午後は前半に学生スタッフのうちの二人が料理ボランティアさんの準備手伝い、ほかの参加学生と学生スタッフは新聞コサージュ作りを行いその後料理ボランティアさんたちと合流しお菓子作りをして試食会その後小学生は解散、参加学生と学生スタッフは会場の片付けと反省会をした。

午前中の勉強の時間はそれほど多くの子供たちは来なかったものの、参加学生の一部の方と一対一で勉強を通して触れ合っていた。勉強を教えていた参加学生は最初戸惑っていたものの少しずつ小学生との会話も増えていっていた。会場の設営では学生スタッフが主となり進めていた。また、会場の設営後に午後の新聞コサージュ作りのための下準備と作り方の確認も行い午後に備えた。

午後の工作の時間は子供たちと参加学生が一対一になるように二組一班で新聞コ

サーージュ作りを行った。まだ工作を始めた当初はお互いに接し方が分からずにぎこちなさがあったものの工作を進めていくうちに打ち解けはじめ工作が終わるころには自然な笑顔が出ていたように見えた。新聞コサーージュにはかざりつけ用のラメやビーズなどを用意して、小学生が飾り付けをできるようにした。それぞれの個性がよく出た新聞コサーージュが出来上がり小学生手伝った参加学生ともに満足気だった。

その後の料理では一対一の形ではなくなったものの、自然な形でスキンシップをとれていたのではないかと思う。作ったおやつは豆腐みたらし団子とチーズ煎餅だった。チーズ煎餅はホットプレートを使っていたためやけどに気を付けるように注意を促した。

その後、おやつの試食会をして小学生は解散となった。参加学生と学生スタッフは会場の片付けの後反省会に移った。

<参加状況>

	8月8日	8月19日	8月27日	三日間合計
参加小学生	10	15	13	38
参加学生	12	6	11	29
学生スタッフ	7	10	10	27
合計	29	31	34	94

4. 参加者からの意見

サマースクール終了後参加学生とともに反省会を行った。その中でアンケートを実施したが、多くの参加者が参加して大変良かったと答えてくれていた。

反省会の時に多く出た感想は子供との関わり方についてが多く、声掛けや触れ合いが難しくとまどってしまっていたようである。ただ、触れ合えて楽しかったなどの意見もあったため子供たちとのかかわり方をそれぞれ考えながら楽しく活動していたように思える。

参加してくれた小学生にアンケートは実施していないものの、学生と子供たちとのやり取りを見ているとどんどん明るくなりお互いが楽しんでいたように感じる事ができた。

5. まとめ・反省

今回のサマースクールであげられる反省は二つある。

ひとつは松阪社会福祉協議会さんとの連絡不足だ。サマースクールの開催前に一度松阪社会福祉協議会さんのところへ試作に行く予定がこちらの連絡不足により迷惑をかけてしまった。もっと密に連絡を取り早い段階で予定を決めていく必要があると思う。

二つ目は準備不足だ。司会の台本のつくり込が甘く、また参加学生に対する工作の事前指導が不十分であったために一日目は時間が押してしまい小学

生の帰る時間が遅くなり親御さんにご迷惑をかけてしまった。しかしその後、松阪社会福祉協議会さんとも話し合い、学生スタッフ同士で助け合うことにより二日目、三日目は時間が予定から大きく外れることもなく進行することができた

しかし、参加学生と小学生はしっかりと打ち解けられていた。子供との関係をしっかりと見直すいい機会になったと考える。

6. 活動風景



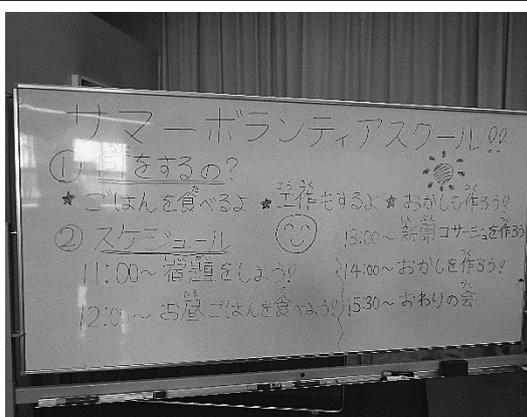
一日目参加者



二日目参加者



三日目参加者



一日の予定を書いたホワイトボード



司会進行



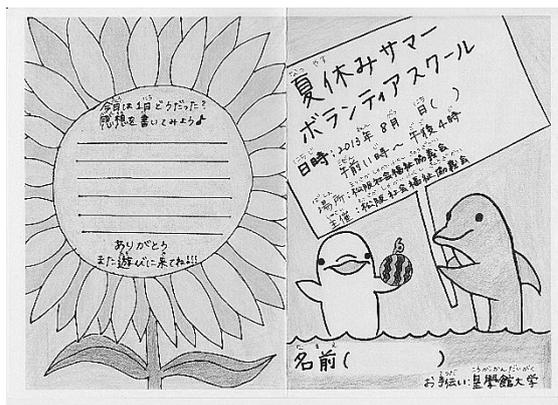
工作を教えているところ



新聞コサージュ



お菓子作り



パンフレット(表紙・裏表紙)



パンフレット(内容)

【文責：教育学部教育学科2年 境井太朗】

年間反省会 活動報告

1. 目的

平成25年度ボランティアルームについて学生スタッフがコーディネート業務や企画についての反省を行い、次年度へ活かすことを目的としている。また活動内容を外部の方に知っていただき、連携してボランティア活動を企画及び促進することも目的とした。

2. 活動内容

日時：平成26年2月7日(金) 14:00時～16:00時

場所：722 教室

対象者：外部のボランティア提供者の方々

企画者：山路騎平(司会) 奥野紘規(書記) 大和田野澄香(記録) 川村亮仁

発表内容	発表者
代表教員あいさつ	守本友美教授
ボランティアルームの紹介	川村亮仁
コーディネート統計	大谷奈都希
サマースクール	境井太朗
災害報告会	西村友希
災害映像会	黒田ゆかり
学生間交流	柘植美早
障がい勉強会	高奥命
ボランティア促進会	森本京花
代表あいさつ	松葉拳介

3. 活動報告

現代日本社会学部 守本友美教授を通じて松阪社会福祉協議会、伊勢社会福祉協議会、明和社会福祉協議会、三重県ボランティアセンターから5名の方々にお越しいただき、ボランティアルームの活動について聞いていただいた。

発表は代表教員である守本友美教授の年間反省会についての挨拶から始まった。次にボランティアルームがどのような場所で、どのような活動を設けているかの説明に入り、大学の機関としてのボランティアルームの役割についての説明を実施した。コーディネート統計ではコーディネートとは何かの説明をし、コーディネートの方法やボランティアを福祉系、子ども系、地域系の三つに分けていることの説明

も行った。また、ボランティアの種類別に平成 25 年度のボランティア件数や前年との比較などの発表、地域ごとのボランティア件数の発表をした。次に松阪社会福祉協議会と小学生の夏季休暇中に行っているサマースクールについての発表をした。今年度の内容として新聞コサージュ作りをしたこと、お菓子作りをしたことなどの発表とともに今後の反省をした。

災害報告会では 2013 年 3 月に一部のボランティアルームスタッフで東北にボランティアへ行ったことについて報告した。また、ここでは 5 月 22 日に行われた学内で開催した災害報告会の反省点などを発表した。災害映像会では、亡くなられたスタッフの方が残してくれた東北の映像を流し、外部の方に見ていただいた。

学生間交流では体を動かしてコミュニケーションをとり、学部・学年を問わない繋がりを作ることを目的として行った學走中についての発表をした。學走中とは、テレビ番組の「逃走中」を真似て行ったレクリエーションのことである。また、學走中ではボランティア活動への参加を促進するという目的も含めていることを発表した。

障がい勉強会では身体に障がいのある方やご年配の方の身体的な状態を理解し、接する上で必要な知識を得てもらうことを目的としたと発表した。内容は盲目疑似体験、車いす体験を主に行った。

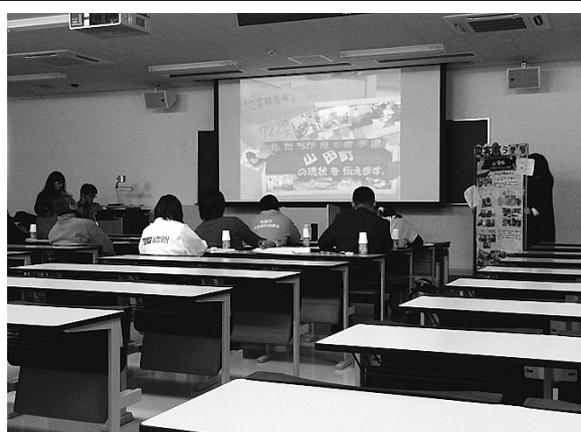
ボランティア参加促進会ではボランティアの疑似体験を通して、実際に行われているボランティアの紹介をした。内容は子ども系、地域系、福祉系に分け、それぞれの参加人数が多いボランティアの疑似体験を参加者に行ってもらった。反省は参加者に友人が多かったことなどがあつた。代表挨拶では学生代表である松葉拳介が平成 25 年度のボランティアルームについての反省として今年は様々な新しい取り組みをしたので「変化の年」とし、これから Twitter や Facebook などを利用して発信を行っていくことを中心に述べた。

発表後、スタッフとお越しいただいた方々との名刺交換や今後のボランティア活動の相談など連携のための懇親会の時間を設けた。

4. 活動風景



代表教員である守本友美教授による挨拶



パワーポイントを使った反省・発表



他社協との交流



学生代表挨拶



参加者集合写真

5. 参加者からの意見

- ・ボランティア活動推進のために、様々な取り組みや課題を分析し事業展開されていることに感銘を受けました。
- ・今後も連携を取り、ボランティア活動の推進に取り組んでいければと思います。
- ・最後の交流会が楽しかった。

6. まとめ・反省

総合的な反省として、パワーポイントを使用した発表をするグループもあればパワーポイントを使用せずに進めるというようなグループもあり、発表方法を一つの方法にまとめずに進めてしまったところがあったため、発表に統一感がないとの声をいただいた。今後はパワーポイントを使用する方法で統一を図りたい。また、初めて外部の方を招いて実施した企画であったため、緊張もありスタッフ一同が原稿を読みながら反省会を進めてしまっていた。今後は原稿も見ず、発表する内容を把握した上で反省会を進めて行くべきだと感じた。外部の方を招いたが、在学生、他の教授、サークルなど学内への発信を怠ってしまったので、今後は学内への発信も行っていきたいと考える。配布資料については、発表する内容を濃くしようとしたために資料の情報が薄くなってしまった。資料のみでも反省会の内容がわかるようにしたい。

【文責：教育学部教育学科 2年 山路騎平】

第 52 回倉陵祭模擬店 活動報告

1. 目的

ボランティアルームを外部の方に知ってもらい、ボランティアの依頼件数の向上を目指すと共に、より多くの学生にボランティアルームの存在を認知してもらうという目的のもと、学祭で模擬店を出店することにした。

2. 日時と場所

出店期間：平成 25 年 11 月 1 日(金) 17:00～19:00

2 日(土) 10:00～19:00

3 日(日) 10:00～16:30

出店場所：皇學館大学 9 号館前 芝生広場

企画担当者：北村知暉、小山菜那、境井太朗、内藤悠、宮本紗代

3. 活動内容

*販売物

ボランティアルームの顧問である叶教授の出身地、山形県名物の玉こんにゃくを販売した。玉こんにゃくは直径約 5cm 程度のもので、500 粒入りの一斗缶を 5 缶購入した。玉こんにゃくを市販のめんつゆで煮詰め、味が染み込みこげ茶色になったものを串に刺して販売した。

*販売価格

前売り券、当日の現金販売共に価格を 100 円に設定した。前売り券を買っていただいた方には玉こんにゃくを串に 4 粒刺して、当日の現金販売の際は玉こんにゃくを串に 3 粒刺して販売した。

*販売者

調理担当に 2 人、販売担当に 3 人の最低 5 人は販売場所のテントにいることを徹底した。しかし実際は常に 5 人以上の人員を確保できたため、商品を持って他の出店団体へ売り込みを行ったり、看板を持つての広告活動も行うことができた。

*募金箱の設置

模擬店の出店を決めた当初は、売り上げ金を支援団体に寄付しようと考えていた。そうして話を進めていくうちに、募金箱も設置するとより多くの寄付ができるのではないかと、という意見があったので募金箱を設置し、募金を募った。また、ボランティアルームをより知ってもらうための工夫として募金箱の横にボランティアルームのパンフレットを置いた。

4. 活動報告

*事前準備

倉陵祭当日の販売の際にテントに取り付ける大きな看板2つと宣伝のために持ち運びができるサイズの小さい看板を2つ、合計4つを作成した。また募金箱を設置するため、募金箱も作成した。これらは捨てる予定の段ボールを再利用したため資源の無駄を最小限に抑えた。また学生スタッフの数も昨年に比べて格段に増えているため事前準備のために多くの時間を割くこともなく短期間で準備することができた。

玉こんにゃくの方は山形県の業者から購入した。宅急便で送ってもらったものの、一斗缶1つづつがとても重いうえに場所をとるので保管場所をどうするかで頭を抱えた。また、試作の際はたれ付きの玉こんにゃくを使用したが一斗缶で購入したものにはたれが付いていなかったため、何で味をつければよいか企画担当者が自宅で実際に作ったりと人手をあまり必要としなかったものの、予想していたより多くの時間を割いた。

*当日

倉陵祭初日である1日の10時から準備が行われた。大学から貸し出される机や椅子を運んでテント設営をする際、企画担当者の不手際で長机を借りることができないというアクシデントがあり、ボランティアルームの机を運ばなければならないというアクシデントがあった。また試作をしっかりと行わなかったため、調理手順が不明瞭でありめんつゆが足りなくなったり玉こんにゃくを入れる容器を欲しがらる声が多かったため急遽備品を買い足したりと企画担当者の準備不足、考えの甘さが目立った。

しかし前売り券200食分は完売し、前売り券を買った人の中でもリピートしてくれる人が数多くあった。あまりおいしそうなイメージを持っていなかったが食べてみるとおいしかったのでまた買いに来たという人が多くいた。こんにゃくはお腹にたまるためダイエットに効果的だと特に女性から強い支持を受けた。

こういった反応が多く、こちらが想定していた以上に好評で結果として1日目は約100食、2日目は約300食、3日目も約300食が売れ、3日間で計700食近くが売れるという大盛況に終わった。

売り上げ総額は73,400円に上り、設置していた募金箱へも3,014円の募金をしていただいた。純利益は21,210円となり、全額を民間NPO団体「国境なき医師団」に寄付した。

収支の詳細については次に示す。

支出の部

玉こんにゃく	43.125 円
ガス代その他諸経費	12.079 円
合計金額	55.204 円

収入の部

売り上げ金	73.400 円
募金	3.014 円
合計金額	76.414 円

収支の差

支出	55.204 円
収入	76.414 円
純利益	21.210 円

5. 反省

玉こんにゃくの試作を十分に行わなかったため、スタッフの間で共通して正しい調理方法が認識されておらず、味がしっかり染み込んでいない等の事態が発生してしまった。また、昨年の活動ではあまりボランティアルームの活動を知ってもらうことができなかったため、今年度は模擬店を出店しようということになったにも関わらず、ボランティアルームを紹介するための活動は販売場所であるテントの隅にボランティアルームのパンフレットを置いておくだけになってしまった。そのパンフレットも多くの人が取っていったわけでもないのに、去年の反省を全く生かしていなかったように感じた。

7. 活動風景



文責：境井太郎(教育学部 2 年)、北村知暉(教育学部 2 年)
内藤 悠(教育学部 1 年)

他大学視察 in 愛知淑徳大学 活動報告

1. 目的

他大学のボランティアセンターとの交流を含め、地域連携及び学内の団体・サークル連携について意見交換をし、以下3点を活動の目的とする。

第一に、来年度以降の学外における地域連携へ踏み出すきっかけとする。

第二に、他大学のボランティアセンターの活動や運営方法を学ぶことで、ボランティアルームの運営について見直す機会とする。

第三に、他大学の学生と交流し、個人の意識の変化を図る。

2. 活動内容

開催日：平成25年3月17日(月)10時～12時

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス コミュニティコラボレーションセンター(CCC)

企画担当者：守本友美(現代日本社会学科 教授)、久保 圭(現代日本社会学科 2年)

参加人数：教員2名、ボランティアルームスタッフ18名

内容：今回の他大学視察では愛知淑徳大学コミュニティコラボレーションセンター(以下 CCC 略)を訪問し、活動内容を聞き、意見交換をした。

3. 活動報告

CCCの専属スタッフの方から CCC が学外のコミュニティとの連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ることなどを目的として活動していること、CCCの概要を説明していただいた。

その後、CCCの学生スタッフの方1～2名につきボランティアルームスタッフ3～4名が集まり、意見交換をさせていただいた。ここでは、CCCの具体的な活動内容や、運営の方法などについての話をさせていただいた。さらに、CCCの学生スタッフの方々は大学外でも子どもと遊ぶ企画や東北支援などを進めるボランティア団体を運営されているため、その団体の活動や運営についてなども話をさせていただいた。

CCCのルームは全面がガラス張りで、位置も入り口近くにあり、開放的で学生が気軽に入りやすい雰囲気であった。そして、壁には学生がボランティアをしているところの写真などが貼られていたり、今まで CCC が企画を行った時に作ったポスターが貼ってあったり、ボランティア情報を一覧にまとめた紙が置いてあるなどの工夫がなされていた。そのため、CCCの前を通りかかった学生がボランティアに興味を持ったり、CCCに来た学生が簡単にボランティアの情報が手に入れられるようになっていたりした。

CCCは学生の自主性を重んじる機関で、それを意識の高い学生スタッフが支えており、両者の良好な関係によってよりよい機関として運営を行っていた。

4. 活動風景



5. 感想

- ・とにかく雰囲気明るかった。スタッフ全員が明るくて、学生は親しみやすいと思った。
- ・学外とのつながりが密であると感じた。
- ・活動写真やボランティア紹介の画用紙のポスターなどが壁に貼ってあり、学生の目をひきつけやすい工夫がなされていた。
- ・連携している機関が多くあり、ボランティア内容も幅広く取り揃えてあった。
- ・学内での企画ではなく、地域の施設や企業などと連携ができる企画が多くあった。
- ・CCCの登録用紙には、趣味や興味のあること、友人などを記入する欄があり、学生の必要とするボランティアの把握につながる工夫がされていた。

6. 反省・まとめ

今回の愛知淑徳大学への視察の結果として、私たちにとって大きな収穫であったと感じた。それは同じボランティアセンターで活躍する他大学の学生スタッフから、個人としての行動力が必要であるということを学んだ。

愛知淑徳大学の学生スタッフは個人の行動力や意見は勿論、それをセンター内で共有しあい、尊重していた。このことは一人ひとりのスタッフに強い刺激を受け「目標をもつこと」、「お互いを尊重し合う」ということの大切さに気づいた。

また、視察後におけるスタッフミーティングで学生スタッフが以前より積極的に意見を出し合っていたこと、一人ひとりの業務への取り組み方から学生スタッフの意識向上がうかがえた。結果として、今回の視察の目標である学生スタッフの意識の変化が見られたと思われる。

最後に、ご多忙の中、私たちボランティアルームを快く受け入れて下さった愛知淑徳大学 CCC の職員及び学生スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

7. 参加者名簿

	学年	学科	名前
1	2年	教育	大谷 奈都希
2			川村 亮仁
3			黒田 ゆかり
4			境井 太朗
5			松谷 広志
6			松葉 拳介
7			山路 騎平
8		現代日本社会	久保 圭
9			小山 菜那
10			眞田 有伊
11			西村 友希
12			宮本 紗代
13	1年	教育	坂元 美咲
14			柘植 美早
15			内藤 悠
16		現代日本社会	大和田野 澄香
17			高奥 命
18			出口 真太郎

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科2年 久保 圭、教育学部教育学科2年 松谷広志 教育学部教育学科1年 内藤 悠】

学生ボランティア交流会 in 七夕 活動報告

1. 目的

ボランティア活動に携わる三重県内の学生と意見交流・事例発表をすることで、他大学とのつながり、連携を深めていく。また、ボランティア活動に対する様々な視点を知ること、ボランティアルームスタッフも刺激をもらい、個人の更なるスキルアップを目指すために参加した。

2. 活動内容

日時：平成 25 年 7 月 7 日（日）13 時 30 分～17 時

場所：アスト津 3 階

主催：三重県社会福祉協議会

参加大学：皇學館大学

三重県立看護大学

四日市大学

鈴鹿医療科学大学

担当者：久保 圭（現代日本社会学部 2 年）

引率者：守本友美教授（現代日本社会学部）

三重県内の大学ボランティアセンターに関わる学生たちが集まり、意見交換を行いボランティアに携わる者としての意識を高めるために開催された。内容としては各大学からの事例発表を行い、その後に大学間で意見交換などを行い、ワールドカフェという形式で相互交流が進められた。

3. 活動報告

各大学の活動報告では、最初に「皇學館大学ボランティアルーム」の発表であった。今回は「皇學館大学ボランティアルームとは何をする機関なのか？」ということを中心に発表した。まずコーディネーター業務について発表した。ボランティアルームが学外からのボランティア依頼を受け、メールや掲示板で学生に随時情報を発信していることや当ルームからのボランティア情報を受けとる登録学生についての説明をした。また、ボランティア参加促進のためにさまざまな企画をおこなっていることも報告した。最後に学生コーディネーターであるために生まれる強みと弱みを報告した。強みとしては同じ学生という立場からボランティア依頼者と学生をつないで依頼先に伝えられることやさまざまなボランティア活動の現場を知ることができることであり、弱みとしては学業やアルバイト、部活・サークルとの両立が難しいことやコーディネーターとしてのスキル・意識がなかなか向上しないことなどを挙げ、今後の課題とした。

次に三重県立看護大学ボランティアサークル「ゆめたまご」が発表した。ゆめたまごは主に医療や福祉に関するボランティアに参加している。母子家庭の子どもたちとの交流や神社・博物館などで車いすの方の付き添い、障がい者の方たちとの交流があった。他にもデイサービスの手伝いなどがあった。長期的に活動を続けることで学生ならではの関係性を築くことが出来るということが理解できた。

続いて四日市大学「四日市地域防犯パトロール」についての発表が行われた。学生たちが自主的に防犯活動に参加して、消火栓や街路灯の確認など防犯について呼びかける、積極的に広報活動・あいさつをして地域社会とのつながりを深めるなどの活動を行ったり、活動の一環として地域のゴミ拾いも実施していることが示された。

最後に鈴鹿医療科学大学「ボランティアセンター」の発表では、復興支援活動ボランティアとして福島で活動した様子を VTR で報告した。現地から戻り三重県では被災地の子ども

たちを志摩に招待して交流を図るといった出来る限りの支援活動を続けている。

次に、各大学の発表者への質疑応答を行った。ボランティアルームに対しては「情報共有の方法」及び「後輩への引き継ぎ」に関して二つの質問があった。一つ目の質問に対しては「スタッフ間の情報共有を図るために日誌、SNSを活用しており、また定期的にミーティングを行っている。」と回答した。二つ目の質問に対しては「後輩たちには業務のマニュアルを読んで、先輩と共同作業で業務を行っている。」と回答した。

最後に他大学との交流会「ワールドカフェ」を行った。くじで決まった席に座り、そのグループ内で「今後はこんなボランティアに参加したい」「ボランティアの魅力」などを話し合った。「今後参加したいボランティア」は「地域の人との交流会を開きたい」「子どもとふれあえるボランティア」人とかかわりについてのボランティアが多かった。「ボランティアの魅力」では「活動でかかわった人を笑顔にできる」「ありがとうと感謝してもらえ」など人の役に立てた事を実感できるという意見が多かった。時間によって席を変え、多くの他大学の学生とたくさん交流し、相互に意見交換をすることができた。

4. 感想

それぞれの大学で進められている活動を知ることで新たな発見ができた。それは私たちコーディネート側の学生とは違い、ボランティアをしている学生の意見を聞いたことである。私たちは同じ学生とはいえボランティアを提供する側にいるため、ボランティアをしている学生の声を生で聞く機会が少なかった。しかし、今回の交流会において「こういうボランティアがやりたい」「ボランティアのやりがい」等の意見を聞いたことで、私たちボランティアルームは学生からの意見・ニーズに寄り添ったボランティア情報を提供していく必要性を感じた。そのためには、学内においてボランティア活動を終えた学生、ボランティアをしたいと考えている学生の声をアンケートや交流会等で収集できるように工夫していかなければならないのではと感じた。

今回の参加によって質疑応答及び意見交換をすることで、それぞれの大学にある情報の共有や後輩への引き継ぎに関する課題及び解決方法なども一緒に考えることができた。

また、ボランティアルームの新入スタッフにとって初めての他大学交流会になったため、同じボランティアに対する思い・考えを共有できたことが経験となって、彼らの今後の活動における励みになっていくと思う。それは、去年からのスタッフにも同じことが言えるだろう。三重県内にも熱血溢れる学生がいることに誇りを持つことができたので繋がりを大切にし、これからも情報を共有できる機会に積極的に参加し、三重県全体の学生ボランティアの促進に少しでも貢献できるように考えていかなければならないと思う。

このような機会を設けてくださった社協の方々、守本先生を含めた各大学の先生方に感謝しております。本当にありがとうございます。

5. 活動風景



6. 参加者名簿

2年次生	奥野 紘規
	川村 亮仁
	北村 知輝
	黒田 ゆかり
	久保 圭
	境井 太朗
1年次生	飯尾 美咲
	大和田野 澄香
	坂元 美咲
	高奥 命
	柘植 美早
	出口 真太郎
	内藤 悠
	林 航平
	森本 京花
引率者	守本 友美教授

文責：久保 圭（現代日本社会学部現代日本社会学科 2年）

川村亮仁（教育学部教育学科 2年）

黒田ゆかり（教育学部教育学科 2年）

ペットボトルキャップ・プルタブ回収 活動報告

1. 活動目的

ボランティアルームでは学内で回収ボランティアをおこなっている。ペットボトルエコキャップ(以下、キャップ)を 800 個でワクチン 1 本、プルタブを 800kg で車椅子 1 台と交換ができる。

昨年度はキャップの回収活動を主体的におこない、約 30,260 個のキャップを「NPO 法人エコキャップ推進協会」に送った。これは約 37 本のワクチンに相当し、今後もこの活動を継続的に行いたいと考えている。

昨年度より多くのキャップ・プルタブを回収し、1 本でも多くのワクチンまたは車椅子に変えることが期待されている。今年度もキャップ・プルタブの回収活動を継続し、多くの学生に活動を理解してもらい、協力してもらうことを目的とした。

2. 活動内容

6 号館ラウンジ前、倉陵会館 1 階・2 階、クラブハウス内、ボランティアルーム前の 5ヶ所にキャップ・プルタブの回収 BOX を設置。

～キャップ・プルタブの発送までの流れ～

- ① 学内に設置してある回収 BOX からキャップ・プルタブを回収する。
- ② キャップを洗浄する。
- ③ 「規定のサイズよりも大きい」「シールが貼ってある」などを確認し、取り除く。
- ④ 戸外に並べて乾燥させる。
- ⑤ ダンボール箱にビニール袋を入れ、その中にキャップを入れる。
(プルタブも同様にして袋詰めする。)
- ⑥ 宛て先伝票を貼り、ガムテープで目張りをする。
- ⑦ 大学の学生支援に発送をお願いする。

※プルタブに関しては②～④の行程はなし。

3. 活動報告

平成 25 年 4 月から平成 26 年 2 月まで継続的に回収・発送を行った結果、約 4,000 個入るダンボール箱を 8 箱、約 32,000 個発送することができた。これは、約 40 本のワクチンに相当することとなった。

さらに今年度は、発送が滞っていたプルタブも 4 箱、約 40kg 分を松阪社会福祉協議会に送った。

昨年度よりも多くのキャップを発送することができた。また、「キャップやプルタブの回

取に協力する」という誰でもできるボランティアを行うことによって、学生のボランティアに対する意識を高めることができたのではないかと思える。また、当ルームが大学内で認知されるようになり、学生だけでなく教員の方々も大量のキャップやプルタブを直接持ってきてくださるようになった。

4. まとめと反省

約 11 ヶ月間回収活動をおこなった。定期的に回収をしていたため回収 BOX がいっぱいなることは少なかったが、キャップの洗浄などが滞ってしまい発送が遅くなってしまった。

もっとスタッフ間での協力が必要であるとともにスタッフがよりいっそキャップ・プルタブ回収について理解できるようにしていき、後輩たちに引き継がせていきたい。いままで、学生に対してキャップ・プルタブ回収についての意見を聞く機会がなかった。今後はアンケートなどを通して学生がこの活動についてどのように感じているかを調査していきたい。さらに協力してくれた学生や教員の方々に対して「どのくらい集まったのか」などの結果を学内で掲示するといったような報告ができていなかった。また、プルタブは車椅子に変えるまでの重量にまだまだ足りないので呼びかけや掲示板などでより多くのキャップやプルタブの回収に協力してくれる学生を増やしていきたい。

(文責:教育学部教育学科 2 年 川村亮仁)



3. アンケート報告

平成 25 年度全学年対象アンケート報告

1. 目的

学生がボランティア活動に対してどれくらい興味を持っているか、ボランティアルームに何を求めているのかを平成 25 年度の調査として実施し、コーディネート業務やボランティア促進企画に活かすためにおこなった。

2. 実施期間

平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月

対象者:全学年

配布方法:1, 2 年生は大講義室で行われる講義の前にアンケート用紙を配布し、3, 4 年生については先生方をお願いしてゼミの時間に配布・記入していただいた。

3. アンケート内容

アンケートの項目は 9 問あり、内容は主に 3 つの要素に分かれている。ボランティアへの参加・不参加について、ボランティアルームや情報の受け取り方について、当ルームの企画について尋ねた。

4. アンケート結果

下のグラフはアンケートを回答してくれた学生の人数をグラフにしたものである。

回答は違いを比較するため、主に学科ごとに集計している。

下の表はアンケートを回答した学生の人数である。

学科	人数
神道学科	120 名
国文学科	249 名
国史学科	273 名
コミュニケーション学科	191 名
教育学科	637 名
現代日本社会学科	265 名

表 1

① ボランティアの参加経験

今までどれだけボランティアに参加したことがあるかを質問した。

選択肢は以下の通りである。

1. 1 回参加
2. 数回参加
3. 参加なし

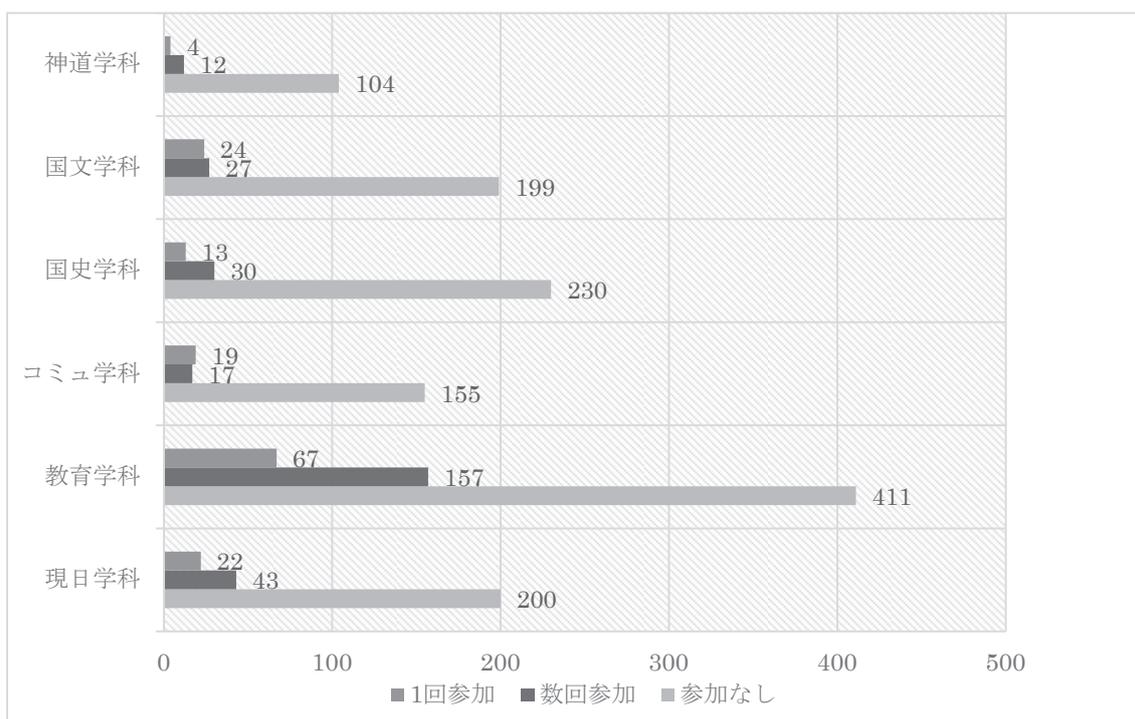


図 1

全体的に“1回参加”よりも“数回参加”している学生が多いことがわかる。一度だけでなく何度もボランティアに参加している学生が増加しているということがわかった。参加学生は教育学科がもっとも多い。みずからのスキルアップや教育実習を意識している学生が多いためではないかと考える。

しかし、今年度も“参加なし”の学生がどの学科でも圧倒的に多い。当ルームでも情報発信・掲示板の工夫やボランティア参加をうながす学内企画をおこなっているが、ボランティアへの参加人数がなかなか集まらないことが課題となっている。

「ボランティアを行うことの楽しさ」「参加者からの感想」「活動風景」などを多くの学生に伝えることによって、ボランティアを身近に感じやすいような手立てを考えていくことが必要であると思われる。

② ボランティアの参加ジャンル

ボランティアルームでは学生に提供する情報を 3 つのジャンルに分け、学生に対して掲示・メール配信をしている。

メール登録してもらった学生は登録学生と呼ばれ、希望のジャンルのボランティア情報を随時メールで受け取ることができるようになっている。

学生にはどのようなジャンルのボランティアに参加したことがあるかを調査するために質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 子ども系
2. 福祉系
3. 地域系
4. 災害支援
5. その他

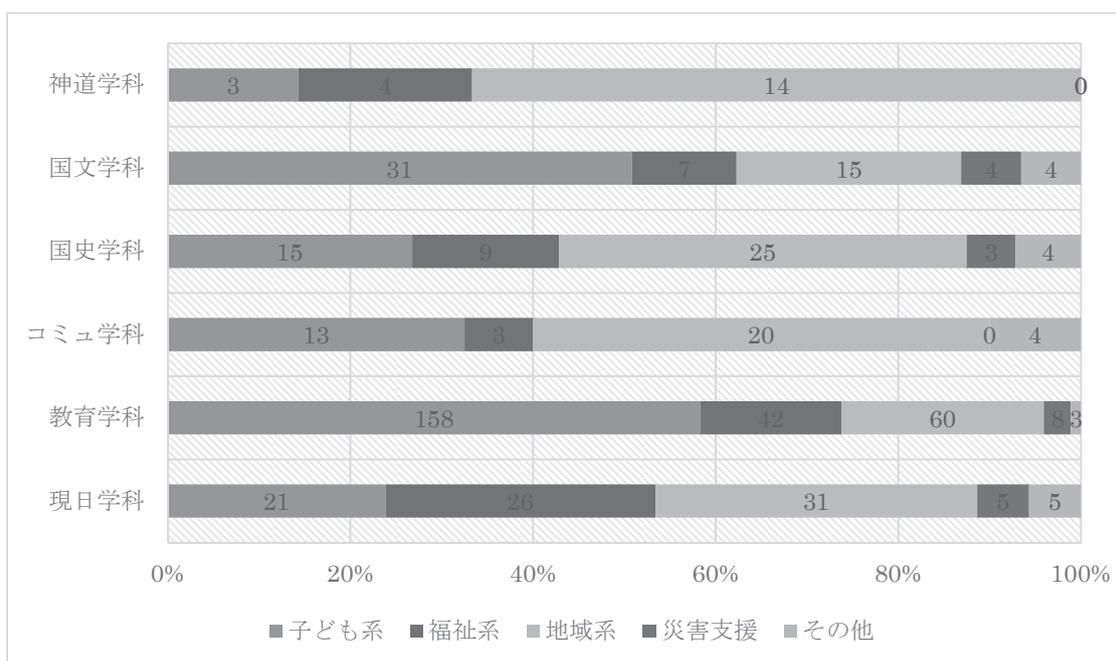


図 2

“子ども系”のボランティアに参加した学生の人数がもつとも多い。様々な子どもとかわることができ、「教育や保育士など将来の役に立つ」「子どもとふれ合えることが楽しい」「特技を活かせる」などの理由から参加している学生が多いのではないかと考えられる。

“地域系”のボランティアは地元から近い場所やさまざまな地域でおこなわれることが多く、イベントに参加しやすい・交通手段があるというのが理由から参加人数が高いと考えられる。

“福祉系”はおもに教育学科と現代日本社会学科からの参加が多い。特別支援や福祉にかかわるコースに所属している学生が多いためと思われる。

昨年と比較すると“災害支援”のボランティアの参加人数がどの学科でも少ないことがわかった。

東日本大震災から 3 年が経過し、学生の間でも話題にすることが少なくなり、風化されつつある。「まだ被災されている方は大勢いる」「現地へおもむき、現状を伝えなくてはいけない」ということをスタッフが報告会などを企画する・災害掲示板を作成するなど積極的に広報し、学生の「被災地のために自分にできることがしたい」という思いを増やしていくこともスタッフの仕事であると感じている。

少数ではあるが「被災地に行きたい」と感じている学生もおり、そのような学生に対して災害に関する情報を提供するなどの援助をしていきたい。

“その他”では県警ボランティアや海外でのボランティア活動、オープンキャンパスの補助やクラブ・サークルなどの団体でボランティアに参加するというものがあつた。クラブ・サークルに関してはイベントなどの参加の情報を伝えるという方法をとっていきたいと考えている。

また、今年度は学園祭で行った売店の売り上げを寄付するなどスタッフも海外支援に対して興味を持っているため、そのような海外に関するボランティアの情報も収集して伝えていきたい。

③ ボランティアルームでの申し込みか

ボランティアに参加したことのある学生にボランティアルームで申し込みをしたかどうかを質問した。

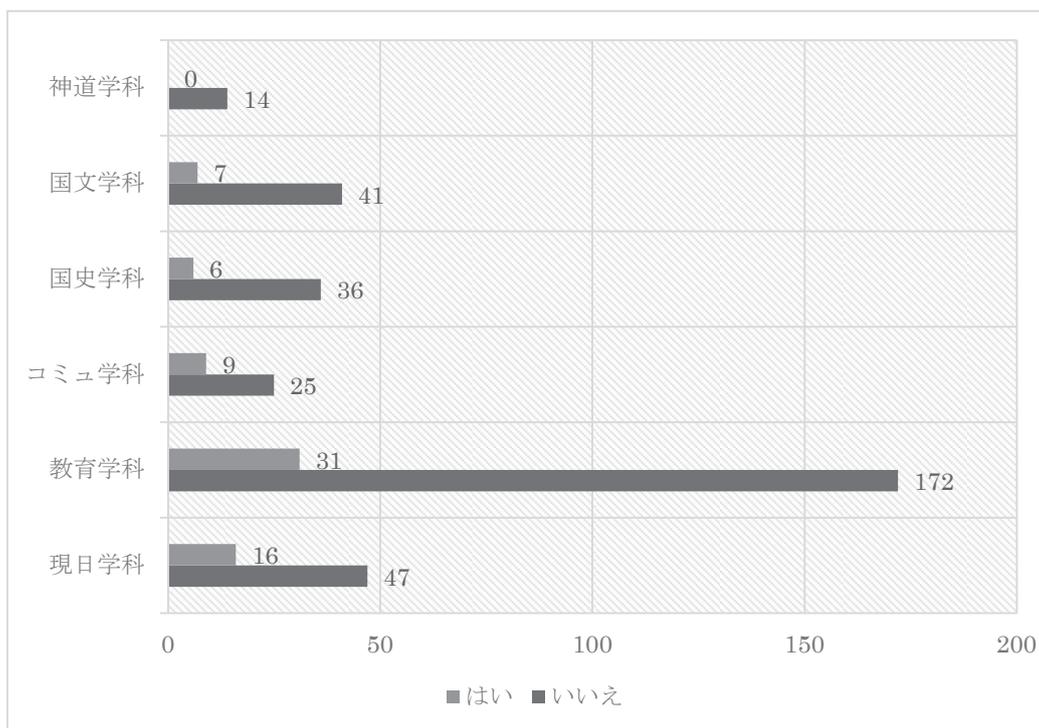


図 3

各学科ともボランティアルームで申し込みをした学生は少ない。自分でボランティアに参加をする学生が多い。アンケートの回答からボランティアルームでの申し込みの仕方がわからないと感じるという意見が多かった。学生に丁寧に、わかりやすく申し込みの方法を教えられるようにしていきたい。

自分でボランティアに参加できる学生ばかりではないはずである。「ボランティアに参加したいがどうすればいいかわからない」そのような学生と外部をつなぎ、参加を促すのもコーディネーターとしての業務である。

当ルームに入りづらいという意見も多い。もっと学生が入りやすい工夫をし、ボランティアに参加する学生を増やしていきたい。

また、コーディネーターとしての力が足りず、対応できないスタッフがいることも要因の一つであると思われる。スタッフもコーディネートの方法を学ぶ、様々な人とかかわる

ことで個人のスキルアップも目指していきたい。

④ ボランティアに参加しない理由

ボランティアに参加したことない学生になぜ参加しないのかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 時間がない 2. 交通手段がない 3. 興味のあるボランティアがない
4. ボランティアに興味がない 5. その他

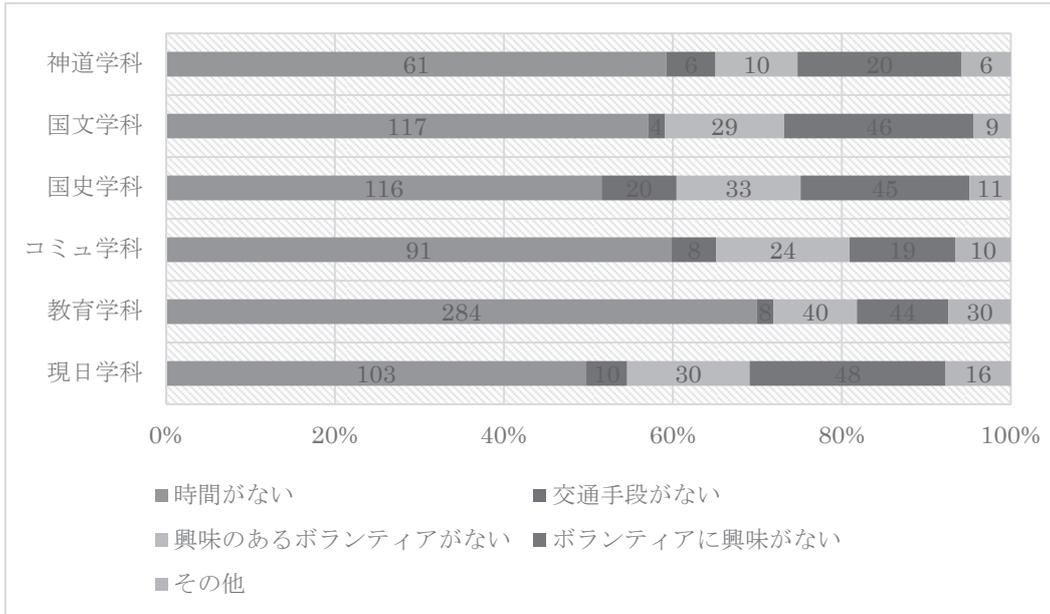


図 4

ボランティアに参加しない理由は“時間がない”がもっとも多い。将来のための勉強やクラブ・サークル、アルバイトなど自分の時間を大切に、自分のやりたいことに専念したいという学生が多い。

“交通手段がない”という学生はあまり見られなかった。“興味のあるボランティアがない”と感じる意見もある。

今後は学生がどのようなことに興味を持っているかも知っていき、その興味にあったボランティアを勧めていきたい。“ボランティアに興味がない”という学生も多い。

その理由としては「報酬が出ない」というのが一番多い。報酬だけでなく、「人と触れ合う楽しさ」「自身の成長につながる」などの参加する利点を伝えていきたい。

また、そのような学生には「有償ボランティア」という謝礼が支払われるボランティアがあるということを伝え、参加を促していきたい。

“その他”では「興味はあるが一步が踏み出せない」「責任感を感じてしまう」などの不安を感じる学生や「ボランティアの開催期間が学生向きではない」「家庭の事情がある」といった参加したいができないという意見が多かった。

「スタッフが申し込みし忘れて参加できなかった」「メールが届かず、ボランティア情報

を取得できない」などのスタッフの失態からボランティアに参加することをやめてしまった学生もいる。

このような経験からスタッフは責任を負わなくてはならないことを再認識して学生からの信頼を得られるようにしていきたい。他には「部活でボランティアをしている」「ボランティアの参加の仕方がわからない」という意見もある。

⑤ ボランティアルームの認知度

学生にボランティアルームを知っているかどうかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 知らない
2. 知っている
3. 聞いたことはあるが場所は知らない

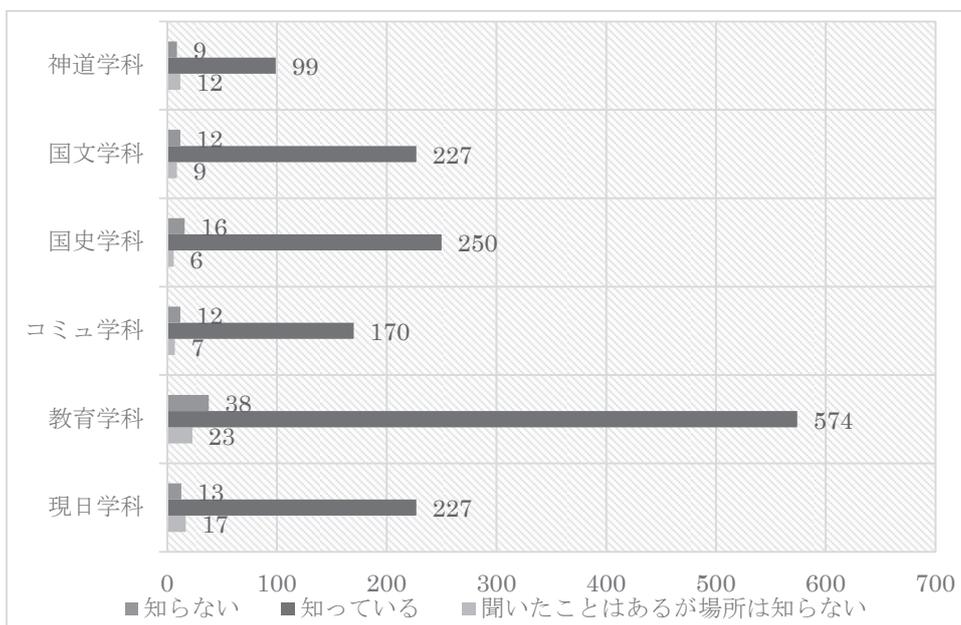


図 5

ボランティアルームを“知っている”と答えてくれた学生が一番多かった。学内でボランティア参加促進の企画を多く実施していたため多くの学生が当ルームを知るきっかけになったのではないかと思います。

今後は当ルームが何をおこなう機関なのかをしっかりと伝えていき、「ボランティアに参加をする」学生を増やしていきたい。

“知らない”“聞いたことはあるが場所は知らない”学生に対してはもっと当ルームの場所やコーディネート業務について広報する活動を増やしていきたい。

⑥ ボランティア情報の取得方法

現在どのようにしてボランティアの情報を受け取っているかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. ボランティアルームからのメール
2. 掲示板(2,6号館1階)
3. 受け取っていない

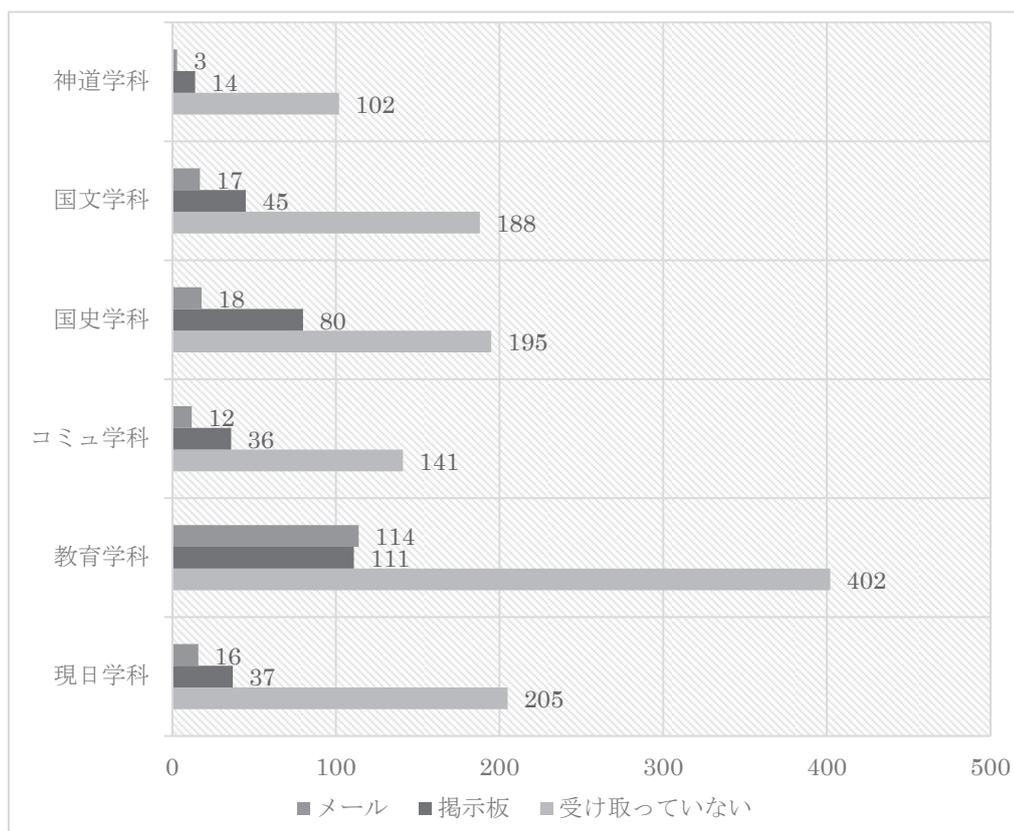


図 6

ボランティアに参加している学生が少ないため情報を“受け取っていない”学生が多い。ボランティア情報を発信するときの工夫でもボランティア参加の人数を増やせるようにしていきたい。

ほとんどの学科が“メール”よりも“掲示板”で情報を取得している学生が多いことがわかる。新年度ガイダンスなどで学生にメール登録を呼びかけているが、登録してくれる学生は少ない。

登録しても情報を受け取らなくなる学生もいる。「メールが長くて読みづらい」「一日に何度もメールが来る」という意見がある。スタッフが情報を発信するときに学生により多くのことを知ってもらおうとするためメールの内容が濃くなってしまっているのが原因であると考えられる。

掲示板は参加したいボランティアを自分で選べるため興味のない情報を受け取らなくて済むことがメールで受け取らないと推測できる。メールを受け取り、読みやすい文にすることや目につきやすい掲示板の工夫などを考えていきたい。

⑦ 今後の取得方法の希望

今後はどのような媒介から情報を受け取りたいかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. Twitter 2. Facebook 3. ホームページ 4. メール 5. 掲示板

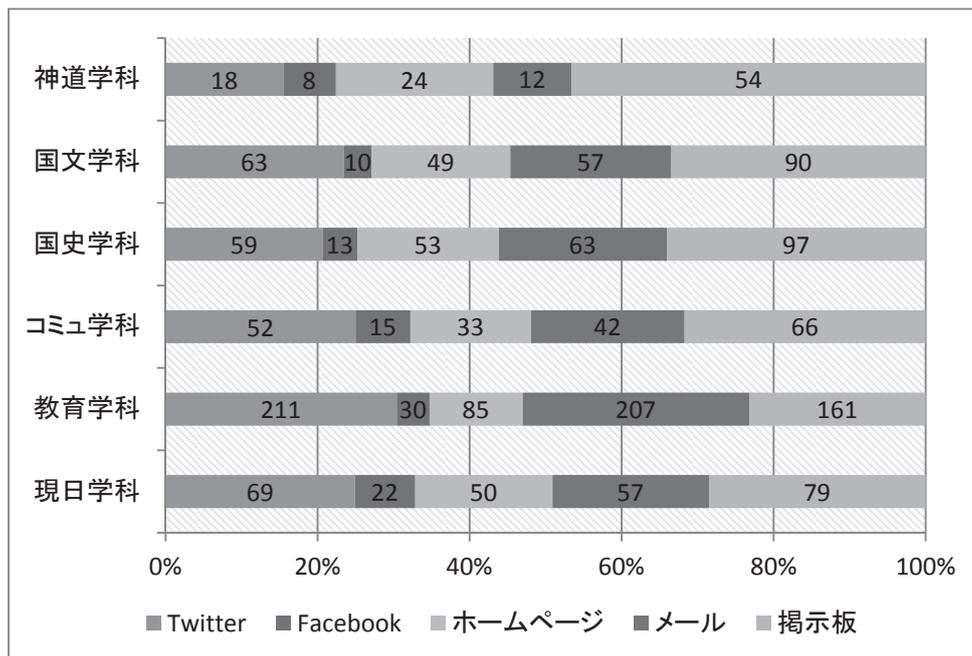


図 7

全体的に“メール”や“掲示板”から情報を受け取りたいと考えている学生がもっとも多い。どの学生でも情報を受け取れることが支持を得ている理由だと考えられる。

“Twitter”を選んだ学生もいる。Twitterであれば一度に多くの情報を受け取ってもすぐに流せるので学生の負担にならないためであると考えられる。しかし、すぐに流せるからこそボランティアの内容をきちんと読まない可能性もあるので一概に推進することはできない。

“ホームページ”で受け取りたいという意見もあるが学生スタッフのみでホームページを作成していくことは難しい。ネットのトラブルのことを配慮しつつ、今の学生に合った情報発信を検討していきたい。

⑧ ボランティアルームの企画への参加

ボランティアルームがボランティア参加促進のために学内でやっている企画について、どの企画に参加したことがあるかを質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 生徒間交流会 2. 活動報告会 3. 障がい勉強会 4. 災害報告会

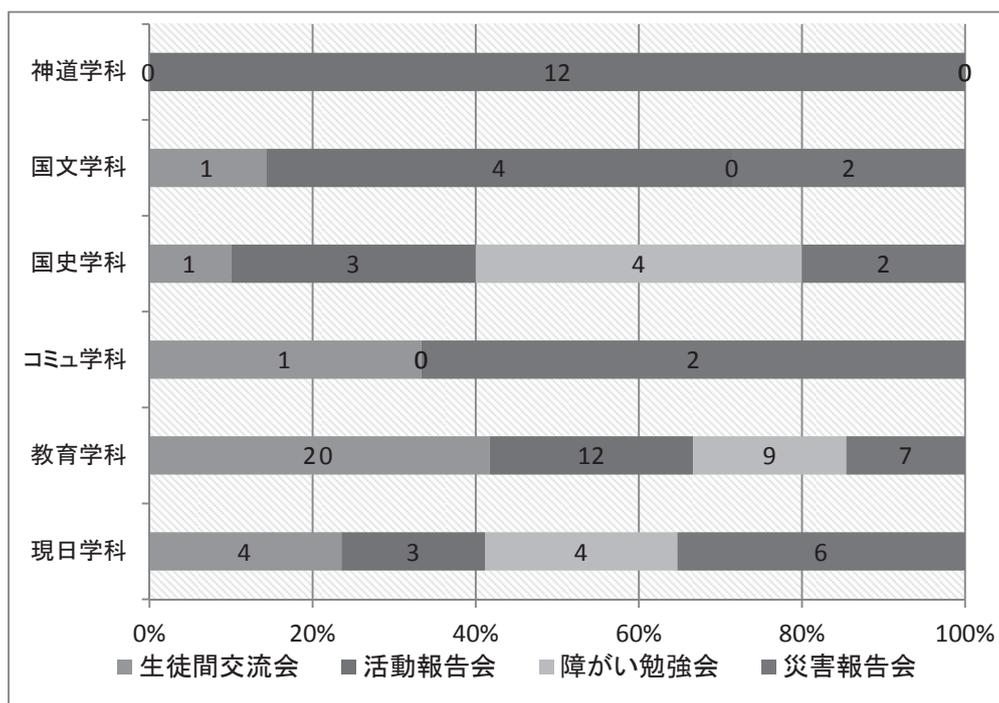


図 8

チラシを配る、呼びかけを行うなどして参加者を募っているが、参加する学生はスタッフの知り合いや毎回同じ学生となることが多い。参加した学生からは「参加して楽しかった」「被災地の現状やスタッフの思いを知ることができた」などの感想をいただき、内容に関しては満足してもらっている。

しかし、参加したことのない学生からは「具体的に何をするのが分からない」という意見が多い。呼びかけの際に簡単で分かりやすい説明をするとともに、掲示するチラシを学生の目に留まるものにする工夫などの必要がある。

企画が行われているのを見て楽しそうと感じる学生や参加した学生から口コミで「参加したいな」と考える学生もいるが参加はしてくれるが企画後、新たにボランティアに参加する学生はほとんどいない。

もっと学生の興味を知り、ボランティアに参加しやすい・ボランティアに興味を持てるような企画を考えていきたいと思う。

⑨ 今後の企画の希望

学生に今後参加してみたい企画の内容を質問した。選択肢は以下の通りである。

1. 生徒間交流会
2. 活動報告会
3. 障がい勉強会
4. 災害報告会
5. 子ども交流
6. 他大学交流
7. 学内清掃
8. その他

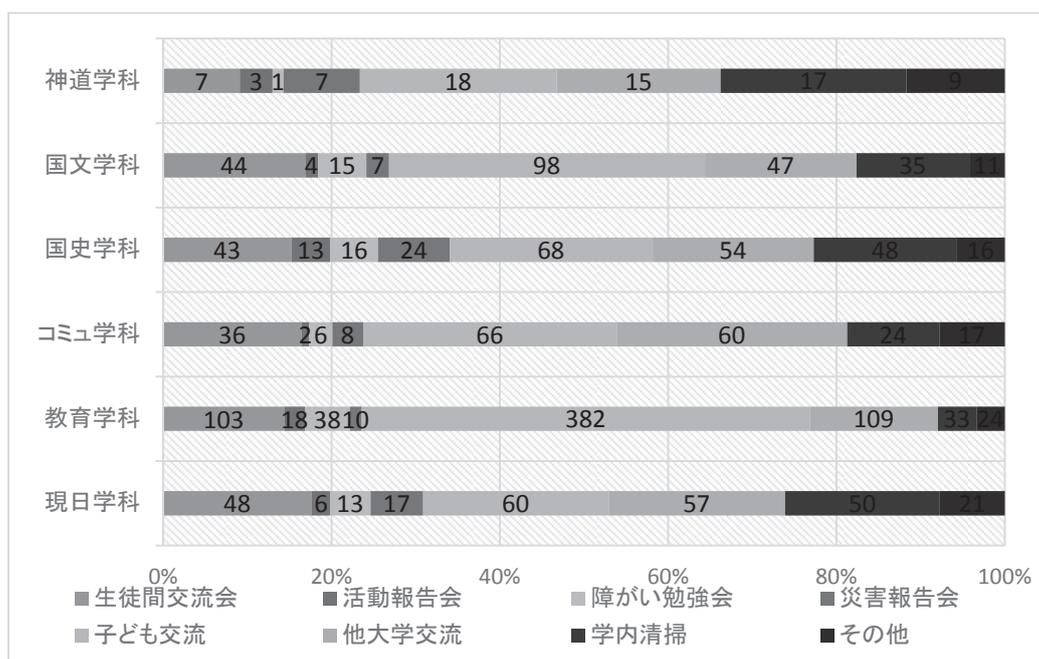


図 9

どの学科でも圧倒的に“子ども交流”が多い。“生徒間交流会”や“他大学交流”も多く、学生はいろんな人とかかわる企画に参加したいと思っていることがわかる。

“障がい勉強会”や“災害報告会”などは意識のある学生は参加したいと感じているが、そうでない学生はあまり参加したいと思わないように思える。もっと「他人の立場を理解する」大切さを伝えていきたい。

また、“学内清掃”をしたいと考えている学生もいる。学内だけでなく川の清掃など地域や身近な場所のために何かしたい、地域の人とかかわりたいという意見もある。

“その他”の意見では「被災地に行きたい」「海外援助がしたい」などの意見があった。県外・海外に目を向け国際交流を図りたいと考える学生が多く、このような学生に対して支援ができるようにしていきたい。

学生が「この中から選ぶのならこの企画かな?」という考え方ではなく、「この企画にはぜひ参加したい!!」と考え方を換えられるようにしていきたい。

⑩ ボランティアルームへの要望・メッセージ

- ・車イスのボランティア、良い思い出になりました。ありがとうございます。(教育1年)
- ・ボランティア掲示が系統別になったので去年よりも見やすくなりました。(教育2年)
- ・あまり知りませんでした。もっと大規模に宣伝等があってほしいです。(現日4年)
- ・ボランティアルームに行ってお話を聞きたいです。(現日1年)
- ・企画の参加者人数とか学年を掲示板などで教えてほしい。(国文1年)
- ・ボランティアの申し込みの書類の管理が不十分すぎる。(コミュ3年)
- ・ボランティアに参加したことないけど今後参加してみたいなと思いました。(国史2年)

5. まとめ・反省

アンケート調査から分かったことは、ボランティアに個人的に参加する学生が多かったことである。当ルームを利用してボランティアに参加して欲しいという思いもあるが、私たちスタッフ間では「ボランティアに参加したいが、初めの一步が踏み出せない」と感じている学生の後押しすることが役目であると考えている。

今年度は新スタッフが増えたため、分担してアンケートを配ることができた。担当になった1年生スタッフも積極的に配布や入力などを手伝ってくれた。

しかしスタッフの人数が多くなったことで、各研究室にアンケートをお願いする、回収するといった作業を全体的に把握することができなかった。

学生スタッフであるためテスト期間や学校行事などが重なってしまいアンケート配布が遅くなってしまった。研究室にお願いしに行く際にはもっと計画的に配布・回収していきたい。

アンケートの情報の入力や集計も計画的に進めていきたい。また、アンケートに携わるスタッフとの情報共有や引き継ぎなどがうまくできていなかった。先のことを考え、全体の流れを確認しながらアンケートの業務をしていきたい。

学生に向けての呼びかけや新たな企画を実施することによってボランティアルームの存在が昨年よりも認知されているということが分かった。学生だけに向けるのではなく、ゼミなどを通じて大学全体に認知できるように宣伝し、連携をとっていきたい。

今年度は新たな企画を多く実施した。そのことによりスタッフが企画のほうにばかりに目を向けて、学生に対してじゅうぶんなコーディネートができていなかった。

このことからスタッフとの間に壁を感じ、当ルームに入りづらいと思う学生が多くいることも分かった。誰でも入りやすいルームを目指し、スタッフ個人のコーディネートの力をつけていきたい。

企画に関しても学生がどのような企画を望んでいるかも知ることができた。このことから学生が参加したいと思えるような企画を行っていきたい。

今まではルームの中で企画を考案してきたが今後は部活・サークルと協力する、ボランティアの依頼をしてくださる外部の方々や他大学と連携して企画を考案していくことも視野に入れていきたいと感じた。

【文責：教育学部教育学科2年 川村亮仁】

4. 資 料

平成 25 年度 活動スケジュール

日時	場所	活動内容
平成 25 年 4 月 2 日(火)	記念講堂	ガイダンス
平成 25 年 4 月 4 日(木)	記念講堂	ガイダンス
平成 25 年 4 月 24 日(水)	サブアリーナ	学生間交流会
平成 25 年 4 月 25 日(木)	ボランティアルーム	第 1 回ルームミーティング
平成 25 年 5 月 22 日(水)	722 教室	災害報告会
平成 25 年 5 月 30 日(木)	ボランティアルーム	第 2 回ルームミーティング
平成 25 年 7 月 3 日(水)	722 教室	春季ボランティア促進会
平成 25 年 6 月 27 日(木)	ボランティアルーム	第 3 回ルームミーティング
平成 25 年 7 月 25 日(木)	ボランティアルーム	第 4 回ルームミーティング
平成 25 年 8 月 8 日(木)	松阪市社会福祉協議会	サマースクール(第一日目)
平成 25 年 8 月 19 日(月)	松阪市社会福祉協議会	サマースクール(第二日目)
平成 25 年 8 月 27 日(火)	松阪市社会福祉協議会	サマースクール(第三日目)
平成 25 年 9 月 26 日(木)	ボランティアルーム	第 5 回ルームミーティング
平成 25 年 10 月 30 日(水)	校内芝生広場	学生間交流会
平成 25 年 10 月 31 日(木)	ボランティアルーム	第 6 回ルームミーティング
平成 25 年 11 月 1 日(金)	校内芝生広場	模擬店
平成 25 年 11 月 2 日(土)	校内芝生広場	模擬店
平成 25 年 11 月 3 日(日)	校内芝生広場	模擬店
平成 25 年 11 月 27 日(火)	711 教室	障がいスクーリング
平成 25 年 11 月 28 日(木)	ボランティアルーム	第 7 回ルームミーティング
平成 25 年 12 月 20 日(金)	ボランティアルーム	第 8 回ルームミーティング
平成 26 年 1 月 7 日(火)	722 教室	東北映像会
平成 26 年 1 月 8 日(水)	721 教室	東北映像会
平成 26 年 1 月 15 日(水)	711 教室	秋季ボランティア促進会
平成 26 年 1 月 23 日(木)	ボランティアルーム	第 9 回ルームミーティング
平成 26 年 2 月 6 日(木)	ボランティアルーム	第 10 回ルームミーティング
平成 26 年 2 月 7 日(金)	722 教室	年間反省会
平成 26 年 3 月 4 日(火)	512 教室	第 11 回ルームミーティング
平成 26 年 3 月 14 日(金)	千年の宴	追いコン
平成 26 年 3 月 17 日(月)	愛知淑徳大学	他大学視察
平成 26 年 3 月 20 日(木)	ボランティアルーム	第 12 回ルームミーティング
平成 26 年 3 月 27 日(木)	ボランティアルーム	第 13 回ルームミーティング

平成25年度 ボランティア募集一覧

No	名称	所在地	施設名	内容	期間、日時	その他	締切	参加学生
1	志摩ロードパーティ ハーブマラソン2013	志摩市	志摩スペイン村	バリアフリーパーティランに参加する障がい者の 伴走、コース沿道においてのサポートや見守り、 コース途中の車イスの介助、視覚障がい者の伴走、 その他の種目に参加の障がい者の伴走	平成25年 4月21日(日)	昼食・飲み物・ス タッフシャツ・ス ペイン村の当日バ スポート券支給	平成25年 3月12日(火)	
2	車イスde伊勢神宮参拝 プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮	伊勢神宮内宮での車イス介助、正宮前階段での 車イス持ち上げ、参加者とのお話など			平成25年 3月14日(木)	
3	ふれあい広場	伊勢市 二見町	二見老人 福祉センター	受付、補助	平成25年 4月28日(日)		平成25年 4月25日(木)	4名
4	伊勢志摩 ツーデーウォーク	志摩市 鵜方町	伊勢志摩ツーデーウォーク 実行委員会	大会の運営の補助	平成25年 5月25日(土) 26日(日)		平成25年 3月30日(土)	
5	二見ふれあいフレンド	伊勢市二見町	二見老人福祉センター	受付や整理券の配布	平成25年 4月28日(日)		平成25年 4月18日(木)	
6	高齢者の方の 遠足補助スタッフ	伊勢市 八日市場町		高齢者の方の 遠足補助	平成25年 4月26日(金)		平成25年 4月16日(火)	
7	志摩教育センター学生ボランティア	志摩市阿児町 鶴方2014-5	志摩教育支援センター	不登校児童、生徒が通う教室で活動の手伝い、 勉強の手助け、話相手、野外活動、調理実習の支援	登録日～平成26年9月31日(月)	選考あり	平成25年 4月25日(木)	
8	伊勢神宮 おもてなしボラ	伊勢神宮 内宮・外宮		お白石持行事のおもてなしボランティア、 お白石と布を選ぶ係り	平成25年 7月27日(土)		平成25年 4月22日(火)	
9	M祭2013 ～まいぶんミニのぼりを作ろう～	津市一身田上津部田		埴輪や土偶などのイラスト入りの自分だけの のぼりを作るサポート	平成25年 8月4日(日)		平成25年 6月27日(木)	1名
10	松阪子どもまつり	松阪市	中部台運動公園芝生広場	子どもまつりのスタッフとしてアナウンスや、 出展団体さんのサポート	平成25年 4月28日(日) 8:30～16:00	雨天時: 松阪市総合体育 館、定員50名	平成25年 4月19日(金)	5名
11	第11回5施設合同運動会	度会郡玉城町	わかば学園	運動会の備品準備	平成25年 5月25日(土)		平成25年 5月14日(日)	2名
12	第26回ふれあいの集い	松阪市	ハートフルみくもスポーツ文化 センター	歌・レクリエーション等を通して障がいのある方と 交流し、理解と親睦を深める	平成25年 6月30日(日)9:00～15:30		平成25年 6月7日(日)	3名
13	スポレク祭	四日市市大字羽津5169	四日市ドーム	レクリエーションゲームの補助等	平成25年 6月7日(金) 13:00～16:00 8日(土) 10:00～15:00	7日:13:00集合 8日:8:30集合	平成25年 5月23日(木)	
14	車イスde伊勢神宮参拝 プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮	伊勢神宮内宮での車イス介助、正宮前階段での 車イス持ち上げ、参加者とのお話など	平成25年 6月22日(土)7:30～11:00		平成25年 6月7日(金)	5名
15	劇団ミュージカルボラスタッフ		農業屋コミュニティ文化センター	ミュージカルにおける大道具の出し入れや 幕引きといった裏方の仕事	8月10日(土) ①開場13:00、開演13:30 ②開場18:00、開演18:30 11日(日) 開場13:00、開演13:30	リハーサル: 7日の午後、 8日9日終日	平成25年 6月20日(木)	J
16	サマースクール	松阪市	松阪社会福祉協議会	工作、お菓子作り等を子どもたちと一緒に 行う	8月8日(木) 19日(月) 27日(火)	事前指導: 7月10日(水)、 12日(金)、 15日(日)	平成25年 7月8日(月)	8日・17名、 19日・14 名、 27日・13名
17	自閉症協会のボランティアの 研修会	津市	城山れんげの里 地域支援棟 (元はばたき2F研修室)	DVD鑑賞、NPO法人ライフ・ステージサポートみえ 正木さんのお話、ボランティア・親の体験談、座談会	平成25年 6月16日(日) 10:30～14:00		平成25年 6月16日(木)	1名
18	療育キャンプ	津市神戸小字小世古1680-1	津市青少年野外活動センター	自閉症の子どもたちが日常と違う環境の中で、 対人関係や共同生活を学ぶキャンプの ボランティアスタッフ	平成25年 8月17日(土)～18日(日)	宿泊: 17日 13:00集合、 18日 11:30解散 日帰り: 17日13:00集合、 20:00解散	平成25年 7月18日(木)	6名
19	第10回 ちびっこ博士グランプリ	伊勢市	伊勢市民活動センター	外宮を子どもたちと引率しながら、ガイドをする	平成25年 8月1日(木) 8:00～13:00	事前説明会あり、 昼食あり	平成25年 6月13日(木)	6名
20	ひまわりコンサートボラ	伊賀市西明寺32401-2	伊賀市文化会館	会場準備、受付、販売など	平成25年 7月7日(日)	現地集合・現地解 散、昼食持参	平成25年 6月14日(日)	
21	外宮奉納市スタッフ	伊勢市	外宮北御門広場	外宮奉納市のスタッフ	平成25年 6月8日(土)、9日(日) 9:00～15:00	一日参加・途中参 加OK、昼食支給 あり	平成25年 6月6日(木)	1名
22	伊勢市中央児童センター祭り	伊勢市八日市場町13-1	伊勢市福祉健康センター3F	ゲームや飲食コーナーのお手伝い、子どもたちと交流	平成25年 8月7日(水) 12:30～16:00		平成25年 7月18日(木)	2名
23	『はなのその』夏祭りボラ	度会郡玉城町 勝田字濱塚 3086-42	介護老人福祉施設 はなのその	出店手伝い、簡単な介助(付き添い等)	平成25年 8月4日(日) 18:00～20:00	集合時間 16:30～17:00	平成25年 6月27日(木)	6名
24	宮川火花大会ボラ	伊勢市	宮川河畔	火花を見ながらゴミ分別	平成25年 7月13日(土) 集合15:30～23:00	夕食・飲み物あり ボラ専用シャトル バス利用可	平成25年 6月27日(木)	
25	みえこどもの城☆ キッズおしごと広場ボラ	松阪市立野町1291	三重県立みえこどもの城	「みえこどもの城☆キッズおしごと広場」において 各企業ブースでの受付や案内など	平成25年 7月7日(日) 9:00～17:00		平成25年 6月24日(月)	2名
26	マコモ田の草取りボラ	大紀町大内山2290-2	米ヶ谷マコモ田一帯	マコモ田の草取り	平成25年 6月29日(土) 10:00～12:00頃	受付9:30から、雨 天時:7月6日(土) に延期	平成25年 6月25日(火)	
27	夕涼み会ボランティア	玉城町	宮の里ミタスマリアルホーム 駐車場	BBQや盆踊りの際の施設利用者の直接介助	平成25年 7月20日(土) 16:30～20:00 雨天決行	雨天時:宮の里 食堂、動きやすい 服装、食事付き	平成25年 7月9日(火)	
28	宮川子ども川サミットINわたらい		宮りバー渡会パーク広場	会場設営・子どもたちの補助	平成25年 8月20・21日(火・水) 9:00～12:00	一泊二日	平成25年 7月4日(木)	
29	宮川親子デイキャンプ	度会郡度会町	宮りバー渡会パーク広場前 河川敷	イベントのサポートスタッフ	平成25年 7月27・28日(土・日) 9:30～16:00		平成25年 7月4日(木)	
30	鳥羽市放課後児童クラブ	鳥羽市	鳥羽小学校 安楽島小学校	施設の指導員の補助	平成25年 7月20日(土)～8月31日(土) 9:00～18:00		平成25年 7月11日(木)	5名
31	アミーユ松阪 夏祭り	松阪市白粉町463-1	アミーユ松阪	有料老人ホームでの夏祭り出店の補助	平成25年 7月20日(土) 16:00～19:30		平成25年 7月15日(月)	1名
32	工房やまの風 鈴の音市	松阪市市街地	鈴の音市出店会場	工房やまの風が出店する店の手伝い	平成25年 8月9日(土) 16:00～21:00		平成25年 7月25日(木)	1名
33	さくら保育園 夏祭り	松阪市大足町701-1	さくら保育園	さくら保育園での夏祭り出店の補助	平成25年 8月3日(土) 16:00～19:30	エプロン・タオル・ 帽子持参	平成25年 7月25日(木)	
34	カトレア 夏祭り	松阪市山室町690-1	介護老人保健施設 カトレア	カトレアでの夏祭り出店の補助	平成25年 8月9日(金) 15:30～21:00		平成25年 8月1日(木)	3名
35	向野園 夏祭り	松阪市久保町1843-7	向野園	向野園での夏祭り出店の補助	平成25年 8月31日(土) 17:00～21:00		平成25年 8月22日(木)	
36	「ふくしまつり」Jin安濃	津市安濃町田端上野818	安濃中央総合公園内多目的 グラウンド	バルーンアート・うわわ作成	平成25年 8月15日(木) 17:00～20:00	雨天時8月16・17・ 18日に順次延期	平成25年 7月25日(木)	

37	しあわせキャンプ	菟野町杉谷2286-1	やすらぎ荘	障がい児(者)と一緒にキャンプを楽しむ、レクリエーション・キャンプファイヤー・夕食作りなどを行う	平成25年 8月17日(土)10:30~18日(日) 12:00頃		平成25年 7月18日(木)	
38	障がい者スポーツ大会ボラ	伊勢市宇治館町510番地	三重県営競技場	陸上競技の進行に関する補助等	平成25年 9月14日(土) 10:00~15:30	雨天時:15日(日) に延期	平成25年 8月8日(木)	5名
39	車イスde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮	伊勢神宮内宮での車イス介助、正宮前階段での車イス持ち上げ、参加者とお話など	平成25年 9月16日(月・祝)	9月8日(日)の事前 レクチャーに必ず 参加	平成25年 9月3日(火)	3名
40	洗心福祉会の夏夜祭	津市高茶屋小森町瓦ヶ野 4152	シルバークア豊壽園	模擬店軽食の準備、ご利用者への配布	平成25年 8月9日(土) 17:00~20:30	服装:ジャージなど の動きやすい格 好・夕食あり 17:00~内容の説明、 18:00~夏祭り	平成25年 7月29日(月)	
41	光の里夏祭り	桑名市新西方3-187	光の里	模擬店の手伝いなど	平成25年 8月23日(金) 13:00~17:00	13:00までに光の 里に現地集合	平成25年 8月8日(木)	1名
42	風の丘風子祭	多気郡多気町相可1863-1	風の丘	利用者さんとのふれあい、ゲーム・出店の手伝い 及び設置、片付けなど	平成25年 11月2日(土) 9:00~15:30	昼食あり	平成25年 10月14日(月)	
43	夏休みの子どもたちに 会いに行こうinいちし	一志町	津市一志農村環境改善 センター高岡学童クラブ	1日目:オリエンテーション、子どもの接し方、放課後 クラブについて 2日目:放課後クラブに訪問、いろいろな遊びを考える 3日目:みんなで考えた遊びを実際に子どもたちと やってみる、まとめ	平成25年 8月22日(木)9:30~12:00 26日(月)9:30~15:00 29日(木)9:30~15:00		平成25年 8月20日(木)	
44	お祭りインドカレー屋台のスタッフ	松阪市	3日:松阪駅前 4日:松阪農業 公園ベルファーム	屋台でインドカレーの販売・接客	平成25年 8月3日(土)16:00~22:00 4日(日)14:00~21:00	軽食代、 交通費の支給	平成25年 8月1日(木)	
45	外宮奉納市のスタッフボランティア	伊勢市	外宮	来場者へのアンケート収集、チラシの配布	平成25年 10月17日、18日	昼食代支給	平成25年 10月3日(木)	2名
46	福祉の社祭り	度会郡玉城町宮古728-18	宮の里ミタメモリアルホーム	利用者の直接介助、模擬店等の手伝い	平成25年 10月20日(日) 9:30~17:00	昼食あり、服装: 動きやすい格好	平成25年 9月19日(木)	2名
47	度会祭縁祭~Joint~	度会郡度会町榎橋2	宮リバー度会公園及び その周辺	ダンスやよさこいを踊る祭りのスタッフ	平成25年 9月23日(月・祝) 10:00~16:00	定員:5~6名、伊 勢庁舎または市 民活動センターか らのバス送迎あ り、小雨決行	平成25年 9月17日(火)	
48	聖母の家まつり	四日市市波木町398-1	聖母の家	模擬店の手伝い、アトラクションのサポート	平成25年 10月20日(日) 10:30~15:00	雨天決行	平成25年 9月20日(金)	2名
49	松阪障がい者(児) 体育レクリエーション大会	松阪市菅原町2678	ハートフルみくもスポーツ 文化センター	障がい者(児)の方々へ一日付き添って、 競技参加等していただく介助のボランティア 及び競技用具の準備など	平成25年 9月29日(日) 9:00~15:30	持ち物:飲み物・ 体育館シューズ、 松阪駅裏からシャ トルバスあり	平成25年 9月10日(火)	
50	第14回河崎商人市ボランティア	伊勢市河崎町2丁目 25番32号	伊勢河崎商人館と河崎本通 (700m)及び河崎川の駅周辺	スタンパリーの担当、商人市の案内(地図の配布)、 伊勢河崎商人館の受付、サイダー等の配布	平成25年 10月27日(日) 8:30~16:00	定員:12~14名	平成25年 10月3日(木)	
51	ひだまりフェスタ運営ボランティア	鳥羽市大明東町2-5	鳥羽市保健福祉センター ひだまり	バザーや受付の手伝い、車イスの補助や 着ぐるみを着て募金活動など	平成25年 10月20日(日)	昼食代支給、服 装:動きやすい格 好、持ち物:タオル、 水筒、名札	平成25年 10月10日(木)	2名
52	伊勢の森トレイルランニングレース 2013	伊勢市	三重県営サンアリーナ	受付、荷物預かり(返却)、エイドステーション、 コース誘導、スイーパー、ゴール会場スタッフ、 会場撤去など	平成25年 12月15日(日) 6:15~14:30	雨天決行、6:00集 合・現地集合・現 地解散、服装:動 きやすい格好 格好、持ち物:携帯 電話・メモ帳・筆記 用具・雨具・水分	平成25年 11月29日(金)	
53	宮川水系川と海のクリーン大作戦	伊勢市	宮川大橋(国道23号下)の 宮川ラブリバー公園と玉城町 岩付付近	清掃活動	平成25年 10月27日(日) 8:00~1時間程度	持ち物:タオル、 帽子、飲み物	平成25年 10月24日(木)	
54	津まつり	津市	フェニックス通り	インドカレーの販売	平成25年 10月13日(日) 10:00~17:30	軽食代、 交通費の支給	平成25年 10月10日(木)	2名
55	伊賀市国際フェスタ2013	伊賀市	大山田B&G海洋センター 駐車場	インドカレーの販売	平成25年 11月4日(月) 9:30~15:00	軽食代、 交通費の支給	平成25年 10月31日(木)	
56	しま国際交流フェスティバル	志摩市	志摩市商工会館	インドカレーの販売	平成25年 11月24日(日) 10:00~16:00	軽食代、 交通費の支給	平成25年 11月21日(木)	1名
57	きらくえん秋まつり	伊勢市藤里町166-10	きらくえん	秋まつりにおける屋台の手伝い、駐車場係り	平成25年 10月19日(土) 13:00~17:00	送迎あり	平成25年 10月16日(水)	
58	工房やまの風	松阪市	マーム松阪店	マーム店において体験等のボランティア	平成25年 10月26日(土)27日(日)	服装:動きやすい 格好	平成25年 10月17日(木)	
59	松阪市療育センター託児ボラ	松阪市殿町1360-16	松阪市福祉会館1階 療育センター	託児ボランティア	平成25年 11月7日(木) 9:30~12:00	服装:動きやすい 格好、持ち物:エ プロン、お茶	平成25年 10月31日(木)	
60	クリスマスチャリティー公演	松阪市	クラギ文化ホール (松阪市文化会館)	クリスマスチャリティー公演において準備、 施設参加者の誘導	平成25年 12月4日(水) 10:30~16:30	服装:動きやすい 格好、昼食あり	平成25年 11月7日(木)	
61	風子祭りのお手伝いボラ	多気郡多気町相可1863-1	風の丘	利用者さんとのふれあい、ゲーム・出店の手伝い、 片付けなど	平成25年 11月2日(土) 9:15~15:30	交通費と昼食代 あり、天啓の里か らの送迎バスあり	平成25年 10月14日(月)	
62	障がい者スポーツ大会・ ボウリング競技スタッフ	津市	津グランドホテル	ボランティア競技の振興に関する補助等	平成25年 12月7日(土)	昼食あり、 8:30集合	平成25年 10月24日(木)	
63	ドキュメンタリー映像上映の 補助スタッフ	津市	みえ市民活動ボランティア センターミーティングルーム	ドキュメンタリー上映の補助、お茶だし	平成25年 11月23日(土) 18:00~20:00	参加費500円(募 金代)、定員:3名	平成25年 11月14日(木)	
64	ボランティアスクールinいちし	津市一志町井関1792	津市とこどもの里	オリエンテーション(共同募金、ボランティアについて)、 パルメントの作り方の講習	平成25年 11月9日(土)	11月に開催される 各地域の文化祭や 一志町ふれあい祭 りの社会福祉協 会のブースの中 で、赤い羽根共同 募金運動のボラン ティアに参加する	平成25年 11月7日(木)	
65	リハセンター歩歩歩(さんぽ) 車いすボラ	伊勢市	豊受大神宮 外宮	豊受大神宮を参拝する利用者さんの介助	平成25年 11月30日(土) 9:00~15:00	昼食あり、服装: 動きやすい格好、 リュックザック	平成25年 11月18日(月)	
66	広がれ友情・ひろがれ仲間	津市西丸之内	お城西公園	ゲームコーナーを担当したり、子どもたちと一緒に 遊んだり、バザーコーナーで売り子をする	平成25年 11月24日(日) 8:00~16:00	服装:動きやすい 格好小雨決行、雨 天中止、昼食あり	平成25年 11月14日(木)	3名
67	オレンジこしをかつこう!	松阪市	三重県立みえこどもの城周辺	みこしを盛り上げるグッズ作り、みこしを知事と 子どもたちと一緒に担ぐ	平成25年 11月16日(土) 13:00~16:00	現地集合・現地解 散、雨天時は館内	平成25年 11月14日(木)	

68	そうぶんのお正月	津市一身田上津部田1234	三重県総合文化センター	イベントブース運営補助として、受付やお客様対応など	平成26年 1月5日(日) 9:00~17:00	昼食あり、服装：動きやすい格好	平成25年 12月5日(木)	6名
69	第3回沼本まつり	伊勢市	伊勢市立上野小学校	赤い羽根共同募金、着ぐるみを着て子どもたちとふれあう	平成25年 11月17日(土) 9:00~13:00	定員：3名、9:00に伊勢市所に集合	平成25年 11月14日(木)	
70	三重県警大学生ボランティア	三重県	三重県内の各警察署を拠点に活動	少年の立ち寄り支援活動、非行防止、健全育成活動に関する諸活動	平成26年4月1日~ 平成27年3月31日	面接あり	平成26年 1月23日(木)	21名
71	はっぴいサークル イベントスタッフ	玉城町	玉城町保健福祉会館	当日の運営補助スタッフ	平成25年 12月26日(木) 10:00~15:00	9:45~受付開始	平成25年 12月20日(金)	2名
72	お化け屋敷ボランティア	多気町	準備：多気児童館 当日：多気町トレーニングセンター	準備：児童とともに準備をしよう 当日：お化け屋敷の運営と片付け	準備：平成25年12月2日(月)~ 随時16:00~18:00 開催：平成26年1月7日(火)	当日参加は準備から参加	平成25年 12月20日(金)	
73	第18回ふれあい広場出展者・スタッフ募集	伊勢市二見町茶屋456-9	二見ふれあいプラザ	出展者・スタッフとともに、主催者である実行委員会のメンバーと一緒に参加	平成26年 1月22日(水) 19:00~		平成26年 1月16日(木)	
74	春祭り	松阪市大口町	まつさか福祉会	イベントに参加した利用者さんのサポート	平成26年 3月1日(土) 12:00~16:30	昼食あり	平成26年 2月20日(木)	
75	志摩ロードパーティ2014 ~バリアフリーパーティーラン~	志摩市	志摩スペイン村	バリアフリーパーティーランに参加する障がい者の伴走、コース沿道においてのサポートや見守り、コース途中の車イスの介助、視覚障がい者の伴走、その他の種目に参加の障がい者の伴走	平成26年 4月20日(日) 7:50~	4月13日(日)15:00~事前説明会に参加必須、昼食・飲み物・スタッフTシャツスペイン村の当日バスポート券支給	平成26年 3月25日(火)	
76	津市メンタルフレンド	津市	ほほえみ教室、ふれあい教室	津市在住の不登校または不登校傾向にある児童生徒に対する支援や相談	平成25年4月~ 平成26年3月 平日9:30~14:30の間で 2~3時間程度	謝礼あり	随時	4名
77	四日市ふれあいフレンド	四日市市	ふれあい教室	ふれあい教室にて児童生徒たちの支援活動、生徒宅訪問(話し相手・遊び相手)	毎月数回程度9:30~13:00 (金曜日のみ9:30~15:00)	活動日程は要相談	随時	4名
78	伊勢市メンタルフレンド	伊勢市小俣町	伊勢市教育支援センター	児童生徒のための支援活動	平日9:00~14:00		随時	1名
79	障がい児サマースクール	松阪市	嬉野社会福祉センター	夏休みに障がいを持つ子どもたちとレクリエーションを楽しむ、トイレ・食事など介助の必要な児童に対しては付き添う	平成25年7月22日~ 8月29日9:00~16:00	昼食あり	随時	4名
80	玉城町つじけ丘児童クラブ	玉城町	玉城町立下外城田小学校	学校帰りの子どもたちと遊ぶボランティア	平日15:30~17:30	自動車可、駐車場有	随時	
81	夏休み児童センターボラ	伊勢市八日市場町13-1	伊勢市中央児童センター	夏休み中、児童センターに来てくれる子どもたちと一緒に遊ぶ	平成25年7月20日(土)~ 9月1日(日)13:00~17:00	直前でも大丈夫	随時	3名
82	くもず学童保育所	津市くもず本郷町1164	くもず小学校	夏休みの宿題・勉強を一緒にして遊ぶ	夏休み7:45~18:30	学生のニーズに合わせる、昼食あり	随時	
83	四季の里ボランティアスタッフ	四日市市西日野5028-1	四季の里	焼肉交流会、流しそうめん、もちつき大会などの全体行事で利用者さんの見守りやスタッフのお手伝いなど	月1回全体行事の日 (毎月第2金曜日)10:00~15:00	活動日・時間・場所ともに行事によって変更になる場合あり	随時	
84	てらこや塾ボランティアスタッフ	伊勢市小俣町	慶蔵院「一会館」	学習支援	平日16:30~、 土・日9:00~21:00	謝礼あり	随時	2名

平成25年度 ルームスタッフ			
	所 属	学 年	名 前
1	教育学部教育学科	4年	小林 祥子
2			長谷 奈瑠美
3	現代日本社会学部現代日本社会学科	2年	久保 圭
4			西村 友希
5			眞田 有伊
6			小山 菜那
7			宮本 紗代
8	教育学部教育学科		松葉 拳介
9			川村 亮仁
10			境井 太朗
11			山路 騎平
12			松谷 広志
13			北村 和暉
14			奥野 紘規
15			大谷 奈都希
16			黒田 ゆかり
17			宮崎 遥香
18	現代日本社会学部現代日本社会学科	1年	出口 真太郎
19			高奥 命
20			大和田 野澄香
21	教育学部教育学科		内藤 悠
22			森本 京花
23			柘植 美早
24			坂元 美咲

